

第55回
北海道作業療法学会学術大会
プログラム

未来につなぐ作業療法

2025年6月21日(土)・22日(日)
ホテルライフオーブ札幌



公益社団法人
北海道作業療法士会



医療法人 喬成会



リハビリテーション
花川病院
HANAKAWA HOSPITAL

〒061-3207 石狩市花川南7条5丁目2番地

TEL 0133-73-5311 (代表)

FAX 0133-73-5243

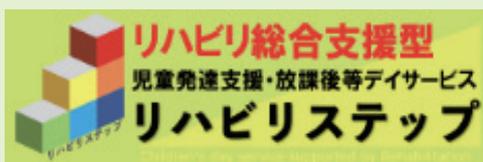
<http://kyouseikai.jp>



診療科目 リハビリテーション科・内科
回復期リハビリテーション病棟 180床
PT85名・OT53名・ST19名在籍
リハ専門医・指導医在籍

＜アクセス＞

- ・地下鉄麻生駅から車で約15分
- ・北海道中央バス「花川病院」下車後徒歩1分

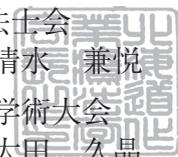


2024年11月より児童発達支援・放課後等デイサービス事業所「リハビリステップ」を開所しました。

令和7年5月吉日

施設長
病院長様

公益社団法人北海道作業療法士会
会長 清水 兼悦
第55回 北海道作業療法学会学術大会
大会長 太田 久晶



学会出張のお願いについて

謹啓 新緑の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素より公益社団法人北海道作業療法士会に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、この度第55回北海道作業療法学会学術大会を下記のとおり開催する運びとなりました。社会への更なる貢献を目指すべく、作業療法のあり方について様々な角度から検証していきたいと考えております。本学会が実りあるものとなり、各関係者のご期待に応えられるよう努力する所存でございます。
つきましては、貴施設作業療法士の学会出張に際しまして、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

謹 白

記

1. 会 期

令和7年6月21日(土) 12:00~18:10
開 会 式
大会長講演
シンポジウム
教育セミナー
一般演題発表
SIGワークショップ
22日(日) 9:00~14:10
基 調 講 演
一般演題発表
SIGワークショップ
市民公開講座
閉 会 式

2. 会 場

ホテルライフオート札幌
(札幌市中央区南10条西1丁目)

3. 事務局

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科内
(札幌市中央区南1条西17丁目)

4. 参加費

会員：6,000円(事前参加登録のみ)
一般：10,000円(当日参加登録のみ)

第55回 北海道作業療法学会学術大会 プログラム集

学会テーマ

未来につなぐ作業療法

会 期 2025年6月21日(土)~6月22日(日)
会 場 ホテルライフオーブ札幌
主 催 公益社団法人北海道作業療法士会

後 援

北海道

札幌市

一般社団法人北海道医師会

一般社団法人北海道薬剤師会

一般社団法人北海道言語聴覚士会

一般社団法人北海道介護支援専門員協会

一般社団法人北海道歯科医師会

一般社団法人北海道歯科衛生士会

一般社団法人日本精神看護協会北海道支部

一般社団法人北海道精神保健福祉士協会

一般社団法人北海道放射線技師会

一般社団法人北海道臨床衛生検査技師会

一般社団法人北海道建築士会

一般社団法人北海道身体障害者福祉協会

一般社団法人北海道精神障害者家族連合会

一般社団法人北海道総合研究調査研究会

一般社団法人北海道総合住宅ケア事業団

一般社団法人北海道知的障がい福祉協会

一般社団法人北海道手をつなぐ育成会

一般社団法人北海道鍼灸師会

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

一般財団法人北海道心臓協会

一般財団法人北海道難病連

公益社団法人北海道理学療法士会

公益社団法人日本義肢装具士協会

公益社団法人北海道栄養士会

公益社団法人北海道看護協会

公益社団法人北海道社会福祉士会

公益社団法人北海道歯科技工士会

公益社団法人北海道柔道整復師会

公益社団法人北海道鍼灸柔整マッサージ師会

公益社団法人北海道臨床工学技士会

公益社団法人認知症のひとと家族の会北海道支部

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会

公益社団法人全国病院理学療法協会北海道地方会

社会福祉法人北海道社会福祉協議会

特定非営利活動法人

北海道若年認知症のひとと家族の会

北海道精神保健協会

北海道ホームヘルプサービス協議会

北海道老人福祉施設協議会

北海道リハビリテーション学会

一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会

北海道新聞社

(順不同・敬称略)

目 次

実施要綱	1
会長挨拶	2
第55回 北海道作業療法学会学術大会 大会長挨拶	3
式次第	4
会場案内図・会場見取り図	5
演者・座長の皆さまへ	7
大会プログラム	9
学会日程表	10
基調講演	12
市民公開講座	14
大会長講演	16
シンポジウム	18
教育セミナー	24
演題プログラム	36
SIGワークショップ	49
実行委員会	59
協賛いただいた施設・団体	60

実施要綱

1 主催機関

公益社団法人北海道作業療法士会

2 名 称

第55回 北海道作業療法学会学術大会

3 会 期

2025年6月21日(土) 12:00～6月22日(日) 14:10

4 会 場

ホテルライフオーブ札幌(北海道札幌市中央区南10条西1丁目)

5 大会長

太田 久晶(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

6 テーマ

未来につなぐ作業療法

7 事務局

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科内

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

実行委員長 齊藤 秀和

E-mail: haot55th@gmail.com



公益社団法人 北海道作業療法士会
会長 清水 兼悦

第55回北海道作業療法学会学術大会の開催に寄せて

このたび、公益社団法人北海道作業療法士会 第55回北海道作業療法学会学術大会が、札幌医科大学の太田久晶氏を学会長、同大学の齊藤秀和氏を実行委員長とする実行委員会諸氏のご尽力により、ホテルライフポート札幌にて盛大に開催されることを、心よりお慶び申し上げます、同時に感謝申し上げます。

Covid-19の影響にて、この5年間は順延や、webやオンデマンド配信も取り入れたハイブリッド方式での運営でしたが、5年ぶりとなる全面的な対面での運営を企画していただきました。これに合わせて対面での質疑応答、セッション後のフロアでのディスカッション等で、参加者同士の交流を深めることに資するプログラムが、実行委員諸氏のご尽力により満載としていただいたことに重ねて感謝申し上げます、一会員として心より楽しみにしております。

太田学会長は、未来へのキーワードとして「『MTDLP』の更なる活用が非常に重要な要素である」と位置づけ、「MTDLP導入の利点とその課題について」と冠したシンポジウムにて道内の実践者からご講演いただけるとのこと。

また、学会のテーマ「未来につなぐ作業療法」に、サブタイトルとして「～作業療法の今後の展望と未来への可能性～」を冠した基調講演には日本作業療法士協会長の山本伸一氏を、市民公開講座には大阪公立大学の竹林崇氏に「脳卒中後の効果的なりハビリテーションについて」をご講演いただけるとのこと。

さらに、「領域の異なる6名の講師による対象者評価・治療訓練に関するレクチャー」として教育セミナーが開かれるとのこと、発表には「ビギナーズ演題」や「ディスカッション重視演題」も組み込まれているとのこと、心より楽しみにしております。

世界の作業療法が学術化されて100年を超え、日本においても60年を迎えるまでに、過去から現在に至っております。作業療法は、その始まりから必要に応じて作業療法士以外の実践家によって体系化されてきた学際的な学術であるがゆえ、未来においても「ヒトの営み」がある限り「作業療法の必要性」はなくなると確信しておりますが、未来に向けて独立した学術体系を有していないと「作業療法士の必要性」は乏しいものとなることと思います。

特に北海道は、広大、寒冷、高齢、過疎、交通、降雪といった北海道特有の地域課題による働き手不足、担い手不足が喫緊の課題になっています。未来は現在よりも社会保障費の削減が必須であります、その脆弱な未来にむけて、社会保障費に依存しない「レジリエントな道民の健康に資する作業療法」を提供する作業療法士を輩出することが、「未来へつなぐ」ことにつながると信じております。

多くの作業療法士が、実行委員会に用意していただく貴重な対面での環境を最大限に活用して、成果の発表や意見を交換することを、心より祈念しております。

第55回 北海道作業療法学会学術大会 大会長挨拶



第55回北海道作業療法学会学術大会
大会長 太田 久晶

ご 挨 拶

第55回北海道作業療法学会学術大会を2025年6月21日（土）、22日（日）にホテルライフオート札幌で開催させていただくことになりました。このたび、本大会長を仰せつかり、大変光栄なことと感謝申し上げます。

今回のテーマですが、「未来につなぐ作業療法」といたしました。少子・高齢化が進展し、かつ地域の過疎化が進む中、また、それと同時に医療技術が進歩する中、これからの時代を担う若い作業療法士がますます活躍できるようになるためには、何が必要であるのか、また、作業療法士が対象者の支援者として、さらに貢献できるために何が必要であるのか、会員の知恵や経験を共有し、会員・参加者が一緒に考え、学びあう機会とさせていただければと考えております。

本大会では、新たな試みとして、一般演題の口述演題のサブカテゴリーとして、次の2つを設定いたしました：①初めて学会発表する演者を座長がサポートする「ビギナーズ演題」、②質疑応答を3分から8分に延長した「ディスカッション重視演題」。これらの枠組みでどのくらいの演題が発表されるのか、そして、当日、演者や参加者の反響がどうであるのか、非常に楽しみにしております。

また、企画内容を検討した際、作業療法士の活躍にはMTDLPの更なる活用は、非常に重要な要素であると考えました。そのため、今回、MTDLPに焦点を当てたシンポジウムをご用意いたしました。加えて、職能団体の行う学術活動は、卒後教育の一環でもあると考え、6名の講師による教育セミナーを企画しました。更に、基調講演として、一昨年度、一般社団法人日本作業療法士協会会長に就任された山本伸一氏にご講演をお願いしております。また、市民公開講座では、臨床・教育・研究等の多方面で精力的にご活躍されている大阪公立大学教授 竹林崇先生をお招きいたします。本大会では、「作業療法士の視点」も意識しましたことから、これらの企画でご登壇いただく講師やシンポジストはすべて作業療法士となっております。そのほかとして、例年通り、会員の興味関心をより高める機会となるSIGの発表枠もご用意いたしました。

当学術大会が札幌で開催されるのは、第50回大会（大会長：清水兼悦会長、会場：ロイトン札幌）以来、5年ぶりとなります。そして、全面対面方式で開催となるのも、第50回大会以来となります。対面での質疑応答、セッション後のフロアーでのディスカッション等で、参加者同士の交流を深めていただければ幸いです。

参加者の皆様が、有意義な時間を過ごせるように、実行委員一同、鋭意準備を進めているところです。みなさまと「未来につなぐ作業療法」のために学び、語り合う2日間となりますよう、ご参加を心よりお待ちしております。

式次第

開会式

6月21日(土) 12:00~12:30

司会 齊藤 秀和

- 1 大会長挨拶
第55回北海道作業療法学会学術大会 大会長 太田 久晶
- 2 会長挨拶
公益社団法人北海道作業療法士会 会長 清水 兼悦
- 3 祝 辞

閉会式

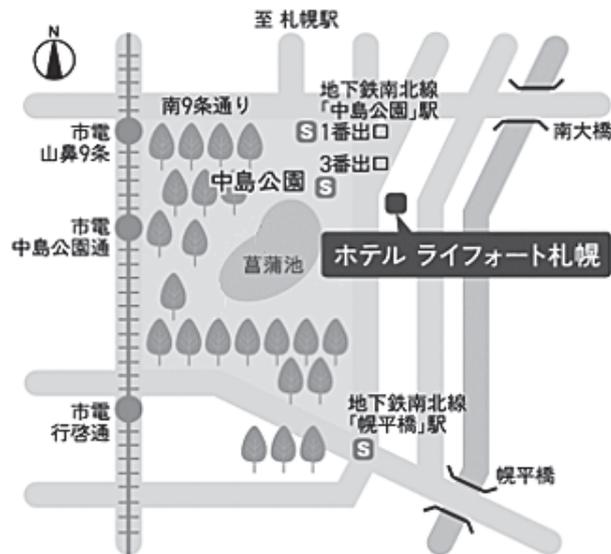
6月22日(日) 11:50~12:20

司会 齊藤 秀和

- 1 表彰式
- 2 大会長挨拶
第55回北海道作業療法学会学術大会 大会長 太田 久晶
- 3 次期大会長挨拶

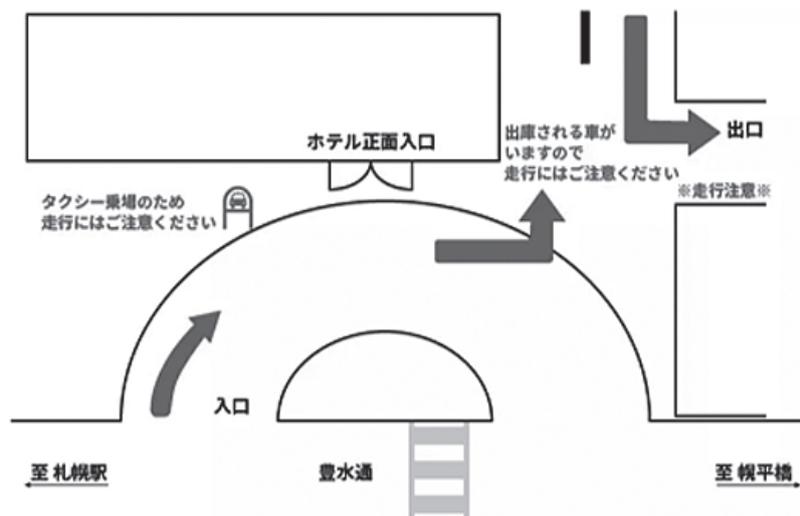
会場案内図・会場見取り図

会場案内図



- ・地下鉄南北線「中島公園」駅3番出口より徒歩約3分
※地下鉄南北線「さっぽろ」駅から地下鉄南北線「中島公園」駅まで所要時間約5分
- ・タクシーではJR札幌駅から約10分

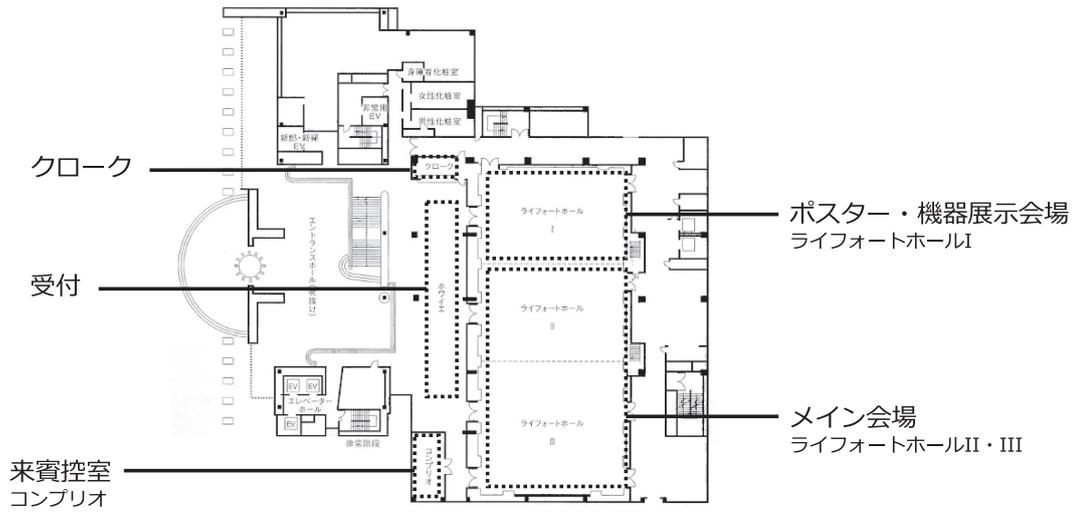
会場案内図



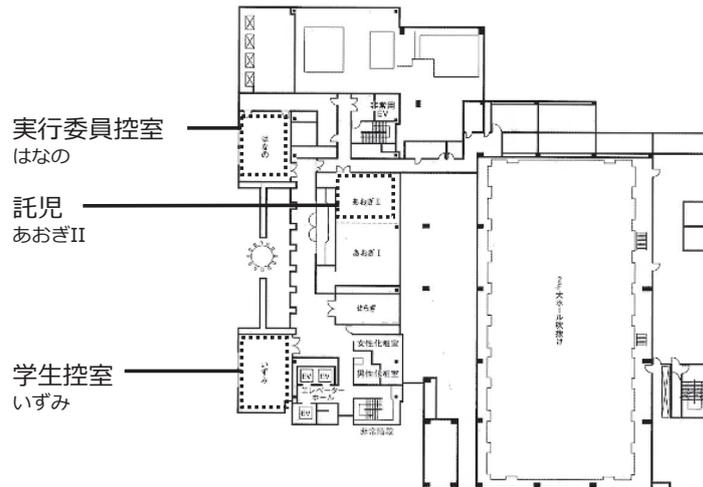
- ・自走式3階建駐車場 (150台)
- ・車高：210cm、車幅：205cm、長さ：448cmの制限
- ・駐車料金 (一般)：最初の1時間 1000円、以降30分毎に500円ずつ料金加算
※フロントの認証機に駐車券を通していただくと宴会・会議利用で最初の1時間300円・以後30分毎100円になります

駐車台数に限りがあります。可能な限り、公共交通機関をご利用ください。

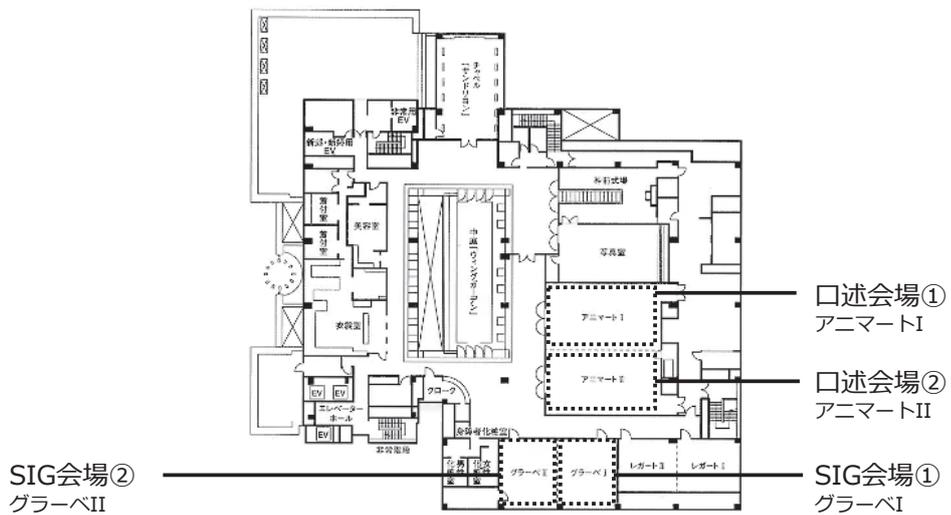
会場見取り図 (2階)



会場見取り図 (3階)



会場見取り図 (4階)



演者・座長の皆さまへ

1. 口述発表の発表要領

- 1) 演題につき、発表は7分以内、質疑応答は3分以内とします(ディスカッション重視演題は、発表7分以内、質疑応答8分以内)。進行は、座長の指示に従ってください。
- 2) 演者に変更のある場合は、学会参加受付時にお申し出てください。
- 3) 演者は該当セッションの10分前までに、発表会場内の次のセッション控え席にご着席ください。
- 4) 演者はセッション終了後までセッション会場に待機し、質疑に対応してください。

2. スライド作成に関する注意事項

- 1) 口述発表で使用するスライドは、Microsoft PowerPoint (2010～)に限定します。
- 2) 図表使用の際は、鮮明なものをご使用ください。動画・アニメーション機能は使用しないでください。スライドの枚数に制限はありませんが、登録時に時間がかかったり、エラーの原因となりますので、写真や画像の場合は、原画サイズを縮小し、JPEG、GIFなどの形式にて添付し、ファイル容量を3,000KB (3 MB) 以内を厳守してください。
- 3) 学会当日、パソコンの持込や接続、スライド受付、確認、差し替えは行いません。
- 4) スライド (Microsoft PowerPointのファイル) は、2025年6月6日 (金) 23時59分までに演題採択者に通知済みの方法にて必ず送信してください。

<お問い合わせ先>

演題抄録部長：中村 裕二

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

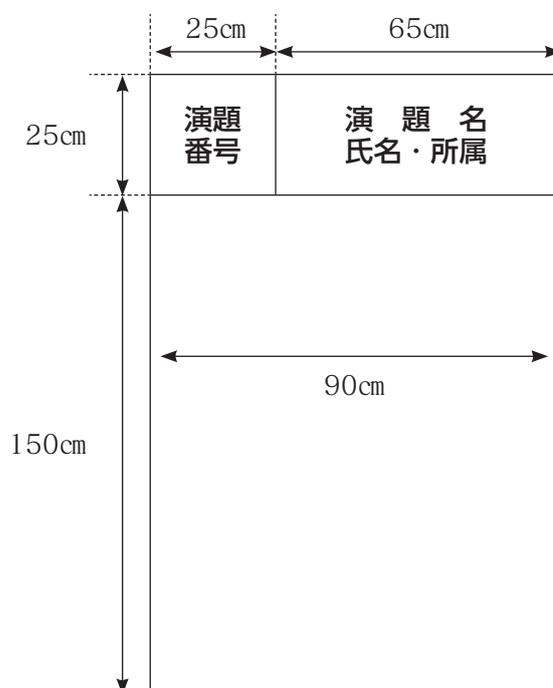
E-mail：haot55th.endai@gmail.com

3. ポスターの作成・発表・展示要領

- 1) 発表者は、発表セッション時間中はポスター前で待機してください。
- 2) 演者に変更がある場合は、学会参加受付にお申し出ください。
- 3) ポスターの展示作業：ポスター発表者は、初日に受付をすませ、その後ポスターを提示してください。展示用パネルに演題番号が表示されていますので、該当する番号のパネルを使用してください。1日目開会式が始まる前に、展示作業を完了してください。
- 4) ポスターの撤去作業：2日目の11:40から12:40までに、完全に撤去してください。1日目にポスターの撤去が必要な場合は、スタッフまでお申し出ください。なお、都合により撤去が困難な場合は、会場のスタッフにお申し出ください。スタッフが撤去を行います。この場合、ポスターの返却は行いませんので、予めご了承ください。

4. ポスター作成に関する注意事項

- 1) 下図のポスター寸法をご参照ください。
 - ・演題名、氏名、所属は、縦25cm×横65cm以内に収まるように作成してください。
 - ・ポスター（本文）は、縦150cm×横90cm以内に収まるように作成してください。



- ・演題番号は、予め表示されています。当日は該当する演題番号のパネルをご利用ください。
- ・[演題名、氏名、所属]
縦 25cm×横65cm以内です。
- ・[ポスター（本文）]
縦150cm×横90cm以内です。
- ・図表・写真の枚数は自由です。
- ・ポスターをA4版に縮小した配布資料、および連絡用名刺の用意を推奨します。配布資料用の袋等は自身でご用意ください。

5. 座長の皆さまへ

- 1) 座長は該当セッション開始30分前までに総合受付内の「座長受付」において、受付を済ませてください。
- 2) 座長は該当セッション10分前までに、会場内の「次座長席」でお待ちください。
- 3) 質疑応答を演題別、あるいはまとめて行うか等、セッションの進行方法については座長の判断でお願いいたします。

6. 表彰について

演題審査委員および各セッションの座長による採点を行います。全演者のうち、優秀演題に選ばれた演者を表彰いたします。演者の皆さまは閉会式への参加をお願いいたします。

第55回 北海道作業療法学会学術大会 プログラム

テーマ

『未来につなぐ作業療法』

会期

2025年6月21日(土) 12:00 ~ 6月22日(日) 14:10

会場

ホテルライフォート札幌（北海道札幌市中央区南10条西1丁目）

企画内容

- ◇**大会長講演** 6月21日(土) 12:30~13:00
「作業療法の更なる発展のために、われわれが行うべきこと」
太田 久晶 大会長（札幌医科大学 保健医療学部 作業療学科）
- ◇**シンポジウム** 6月21日(土) 13:10~14:40
「MTDLP導入の利点とその課題について」
荒井 英俊 氏（医療法人ひまわり会 札幌病院）
森田 和幸 氏（社会福祉法人北斗 十勝リハビリテーションセンター）
平田 和貴 氏（医療法人社団函南会 あしりべつ病院）
- ◇**教育セミナー1・2** 6月21日(土) 14:50~18:00
「明日から使える評価・治療訓練 ~領域の異なる6名の講師による
対象者評価・治療訓練に関するレクチャー~」
佐藤 大樹 氏（社会福祉法人函館厚生院 五稜郭病院）
山中 佑香 氏（社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院）
齊藤雄一郎 氏（医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院）
迫 知輝 氏（社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター）
水口 克信 氏（医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院）
片桐 一敏 氏（医療法人喬成会 花川病院）
- ◇**基調講演** 6月22日(日) 10:10~11:40
「未来につなぐ作業療法~作業療法の今後の展望と未来への可能性~」
山本 伸一 氏（一般社団法人 日本作業療法士協会 会長）
- ◇**市民公開講座** 6月22日(日) 12:40~14:10
「脳卒中後の効果的なりハビリテーションについて」
竹林 崇 氏（大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所、
大阪公立大学医学部リハビリテーション学科 教授）

学会日程表

1日目 6月21日(土)

	メイン会場	ポスター・ 機器展示会場	口述会場①	口述会場②	SIG会場①	SIG会場②	
	ライフォートホール II, III	ライフォートホール I	アニマート I	アニマート II	グラーベ I	グラーベ II	
12:00	12:00~12:30	ポスター演題 機器展示 休憩室					
12:10	開会式						
12:20							
12:30	12:30~13:00						
12:40	大会長講演						
12:50							
13:00							
13:10	13:10~14:40			13:10~14:10	13:10~14:10	13:10~14:10	
13:20	シンポジウム MTDLP 座長 坂上 真理氏 (札幌医科大学)			口述① 身障 I 座長 金谷 匡紘氏 (北海道文教大学)	口述② 発達 座長 依田 泰知氏 (北海道医療大学)	SIG① 北海道ハンド セラピー研究会	SIG② 北海道がん・ 内部障害作業療法 ネットワーク
13:30							
13:40							
13:50							
14:00							
14:10							
14:20				14:10~15:10	14:10~15:10	14:10~15:10	
14:30				口述③ 地域・高齢 I 座長 岩永 輝明氏 (札幌・すがた医院)	口述④ 身障 II 座長 佐藤 飛友悟氏 (札幌・すがた医院)	SIG③ 北海道活動分析 研究会	SIG④ OT学生連携 ワークショップ
14:40							
14:50		14:50~16:20					
15:00	教育セミナー1 ・身障：整形疾患 ・身障：内部障害 ・高齢期 座長 中村 充雄氏 (札幌医科大学)	15:10~15:40 ポスターセッション 1					
15:10							
15:20							
15:30							
15:40							
15:50							
16:00				15:40~16:40	15:40~16:40	15:40~16:40	
16:10				口述⑤ 基礎 座長 山田 恭平氏 (北海道千歳リハビリテーション大学)	口述⑥ 調査・教育 座長 高島 理沙氏 (北海道大学)	SIG⑤ 北海道災害リハビリ テーション推進協議 会・北海道作業療法 士会災害対策委員会	SIG⑥ 北海道作業 遂行研究会
16:20							
16:30		16:30~18:00					
16:40	教育セミナー2 ・発達 ・精神 ・身障：中枢疾患 座長 中村 裕二氏 (札幌医科大学)	16:40~17:10 ポスターセッション 2					
16:50							
17:00							
17:10							
17:20				17:10~18:10	17:10~18:10	17:10~18:10	
17:30				口述⑦ 身障 III 座長 小林 利行氏 (札幌さかえリハビリテーション病院)	口述⑧ 地域・高齢 II 座長 朝日 まどか氏 (北海道医療大学)	SIG⑦ 北海道作業療法士会 教育部 MTDLP 推進委員	SIG⑧ 北海道視能 訓練士会
17:40							
17:50							
18:00							
18:10							
18:20							
18:30							
18:40							
18:50							
19:00							

2日目 6月22日(日)

	メイン会場	ポスター・ 機器展示会場	口述会場①	口述会場②	SIG会場①	SIG会場②
	ライフオートホールII, III	ライフオートホールI	アニマートI	アニマートII	グラーパーI	グラーパーII
09:00	09:00~10:00	09:00~11:40	09:00~10:00	09:00~10:00	09:00~10:00	09:00~10:00
09:10	口述⑨ MTDLP 座長 荒井 英俊氏 (札幌病院)	ポスター演題 機器展示 休憩室	口述⑩ 身障IV 座長 井部 光滋氏 (札幌徳州会病院)	口述⑪ 身障V 座長 勝浦 駿平氏 (札幌医科大学附属病院)	SIG⑨ 北海道作業療法士会 地域部 運転と地域移動支援 推進課	SIG⑩ 札幌精神科作業療法 研究会 (POT研)
09:20						
09:30						
09:40						
09:50						
10:00	10:10~11:40 基調講演 日本作業療法士協会 山本 伸一 会長 座長 清水 兼悦氏 (札幌山の上病院)					
10:10						
10:20						
10:30						
10:40						
10:50	11:50~12:20 閉会式					
11:00						
11:10						
11:20						
11:30						
11:40	12:20~12:40 市民入場					
11:50						
12:00						
12:10						
12:20						
12:30	12:40~14:10 市民公開講座 大阪公立大学医学部 リハビリテーション学科 竹林 崇氏 座長 太田 久晶 (札幌医科大学)					
12:40						
12:50						
13:00						
13:10						
13:20						
13:30						
13:40						
13:50						
14:00						
14:10						
14:20						
14:30						
14:40						
14:50						
15:00						

基 調 講 演

「未来につなぐ作業療法 ～作業療法の今後の展望と 未来への可能性～」

演者

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

山 本 伸 一 氏

座長 清水 兼悦 氏

(公益社団法人北海道作業療法士会会長 札幌山の上病院)

6月22日(日) 10:10~11:40

メイン会場：ライフオーホールⅡ,Ⅲ



一般社団法人 日本作業療法士協会
会長 山本 伸一

未来につなぐ作業療法 ～作業療法の今後の展望と未来への可能性～

令和7年6月21-22日（土・日）、北海道・札幌（ホテルライフオーポート札幌）にて、「第55回北海道作業療法士学会学術大会」が開催されます。積み重ねてこられました先人の先生方の弛まないご努力ご尽力に敬意を表します。そして今回、当会員の皆様や運営事務局等により、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

本学会は、太田久晶学会長（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）のもと、テーマは「未来につなぐ作業療法」でございます。2025年・2040年問題のなかで、それらを見据えた本学会。作業療法士の活躍の場は、乳児から高齢者まで、介護予防から急性期・回復期・生活期、そして終末期のすべてです。バランスの良い作業療法士の配置を。在宅復帰に留まらず、就学・就労・趣味拡大等、いきがいを持った「真の暮らし」のために作業療法があります。わたしたち作業療法士だからわかること、そして出来ること。士会・協会の連携をさらに強化し、力を合わせてまいりましょう。

願いは、対象者にとって、「いつでも、どこでも」作業療法の質が担保されたサービスを受けられること。都道府県作業療法士会と日本作業療法士協会にとって、それが責務になります。私たちは、会員の皆様に向けて、2025年度より生涯学修制度をさらに充実。登録作業療法士制度の導入や前期・後期研修の5年間には実地経験（職場における実践）も始まります。質と登録数を保障することで、臨床の成果だけでなく、未来の報酬制度に活かされることを目指します。

今回、作業療法に纏わる状況の整理と制度関連等を振り返り、日本作業療法士協会の動向もご紹介いたします。そして、私自身の臨床動画とともに、「変わるべきこと、変わらないこと」を皆様と共有したいと思います。

第4次5か年戦略を推進中でございます。私たちの未来は、私たちの手で創らなければなりません。臨床作業療法の最良の質と量の提供のために、全国の組織が手を取り合い、一体となって歩んでまいりましょう。

結びになりますが、第55回北海道作業療法士学会学術大会の盛会と北海道作業療法士会の益々のご発展を祈念いたします。これからも何卒よろしくご厚意申し上げます。

山本 伸一 (やまもと しんいち)

●略歴

- 昭和62年3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業
昭和62年4月 医療法人財団加納岩 山梨温泉病院
(現山梨リハビリテーション病院) 入職
令和5年6月 社会医療法人加納岩 山梨リハビリテーション病院 退職
一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 就任
令和5年7月 社会医療法人加納岩 山梨リハビリテーション病院 非常勤 名誉副院長

●受賞歴

- 平成28年(2016) 厚生労働大臣表彰

●一般社団法人 日本作業療法士協会活動

- 平成13年8月(2001)～平成21年7月 理事
平成21年8月(2009)～平成29年5月 常務理事
平成29年6月(2017)～副会長
令和5年6月(2023) 会長～

●社会活動

- <2025年1月1日現在>
一般社団法人 日本作業療法士協会 会長
学校法人 健康科学大学 評議員 その他

●著書

- 1) 山本伸一・伊藤克浩・高橋栄子・小菅久美子編集：活動分析アプローチ 青海社 2005
- 2) 山本伸一編集：中枢神経系疾患に対する作業療法～具体的介入論からADL・福祉用具・住環境への展開～ 三輪書店 2009
- 3) 山本伸一・伊藤克浩・高橋栄子・小菅久美子編集：活動分析アプローチ第2版 青海社 2011
- 4) 山本伸一編集：疾患別 作業療法における上肢機能アプローチ 三輪書店 2012
- 5) 山本伸一監修：重度疾患への活動分析アプローチ 青海社 2013
- 6) 山本伸一編集：臨床OT-ROM治療～運動解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開 三輪書店 2015
- 7) 山本伸一監修：CVA×臨床OT～「今」リハ効果を引き出す具体的実践ポイント～ CBR 2020
- 8) 山本伸一編著：PT・OTのための脳卒中に対する臨床上肢機能アプローチ～弛緩から痙性・失調・肩の痛み、高次脳機能障害等に対するMovement-Therapy～三輪書店 2023 等

市民公開講座

「脳卒中後の効果的な リハビリテーションについて」

演者

大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究科
大阪公立大学医学部リハビリテーション学科

竹 林 崇 氏

座長 太田 久晶

(第55回北海道作業療法学会学術大会大会長
札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

6月22日(日) 12:40~14:10

メイン会場：ライフオーホールⅡ,Ⅲ



大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所
大阪公立大学医学部リハビリテーション学科 教授
竹林 崇氏

脳卒中後の効果的なリハビリテーションについて

脳卒中とは、脳の血管が詰まったり破れたりすることで、脳細胞に酸素や栄養が届かなくなり、細胞が死んでしまう病気です。大きく分けると、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つのタイプがあります。かつては日本人の死因の第1位でしたが、近年、救急医療の発展や治療法の進歩により、死亡率は大幅に低下し、2022年の厚生労働省の調査では第4位となっています。しかし、命が助かる確率が向上した一方で、脳卒中の後遺症に苦しむ患者さんは多く、発症後のリハビリが極めて重要とされています。実際、脳卒中は寝たきりの原因の第2位とされており、適切なリハビリを行うことで、生活の質を向上させることが求められています。

脳卒中の後遺症には、片半身の運動麻痺や、高次脳機能障害（集中力の低下や記憶障害など）が含まれます。近年では、こうした後遺症に対し「根拠に基づいた」リハビリが重視されています。たとえば、病院で処方される薬は臨床試験を経て効果が証明されたものですが、リハビリについても、正確な手続きで実施された臨床研究など、科学的根拠に基づいたリハビリ手法を行うことが推奨されるようになってきました。特に、リハビリ領域の中でも、脳卒中後のリハビリに関する臨床研究は他の分野に比べても非常に多く、根拠に基づいたリハビリの導入が進めやすい環境が整いつつあります。そのため、患者さんの嗜好性も考慮し、医療者と相談しながら、最適なリハビリを実施することが大切だと考えられています。

Hirayamaら（2024）の研究では、脳卒中後の片手の運動麻痺に対し、エビデンスに基づいたリハビリがどの程度実施されているかを調査しました。米国心臓/脳卒中学会が2016年に発表したガイドラインでは、CI療法（強制運動療法）、課題指向型練習、電気刺激療法、メンタルプラクティス（運動イメージトレーニング）が推奨されています。この研究で、それらのリハビリ手法の実施率を調査したところ、重症例では44.9%、中等度例では48.3%、軽症例では69.3%という結果が得られました。このことから、一般的には推奨されているものの臨床現場では、根拠に基づくリハビリの普及がまだまだ十分に進んでいない可能性があることが指摘されています。

多くの人にとって、健康なうちは、病気を発症した後のことなど考えることはほとんどないと思います。特に、回復期リハビリ病棟の存在を意識する機会は少ないと思います。しかし、脳卒中を発症した際には、適切なリハビリを受けられるかが回復の度合いを左右します。本講義では、脳卒中後に生じる手の運動麻痺に関するリハビリとして医学的に推奨されている手法を紹介するとともに、充実したリハビリを提供する医療施設を見極めるための情報収集のコツについて、具体的なTipsを共有していきます。

竹林 崇 (たけばやし たかし)

●略歴

- 2003年 川崎医療福祉大学 医療技術部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 卒業
兵庫医科大学病院リハビリテーション部 入職
- 2013年 大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類
大学院総合リハビリテーション学研究科 博士前期課程 修了 (修士)
- 2016年 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業療法学科 准教授
- 2018年 兵庫医科大学大学院 医学研究科医科学専攻 高次神経制御系
リハビリテーション科学 修了 (博士)
大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類
作業療法学専攻 准教授
- 2020年 大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類
作業療法学専攻 教授
- 現在に至る

●主な業績

1. Takebayashi T, Takahashi K, Okita Y, Kubo H, Hachisuka K, Domen K. Impact of the robotic-assistance level on upper extremity function in stroke patients receiving adjunct robotic rehabilitation: sub-analysis of a randomized clinical trial. J Neuroeng Rehabil 25: 25 (2022)
2. Takebayashi T, Takahashi K, Amano S, Goshō M, Sakai M, Hashimoto K, Hachisuka K, Uchiyama Y, Domen K. Robot-Assisted Training as Self-Training for Upper-Limb Hemiplegia in Chronic Stroke: A Randomized Controlled Trial. Stroke 53: 2182-2191 (2022)
3. Takebayashi T, Uchiyama Y, Okita Y, Domen K. Development of a program to determine optimal settings for robot-assisted rehabilitation of the post-stroke paretic upper extremity: a simulation study. Sci Rep 13: 9217 (2023)
4. Takebayashi T, Uchiyama Y, Domen K. Automatic setting optimization for robotic upper-extremity rehabilitation in patients with stroke using ReoGo-J: a cross-sectional clinical trial. Sci Reports14: 25710 (2024) 等

●海外における活動

- 2012年 University of Alabama, BirminghamにおけるCI therapy training programに参加・修了
JICAベトナムプロジェクト短期専門家プログラム参加
- 2018年 American congress of rehabilitation medicineにて、シンポジストを担当
- 2019年 International society of physical medicine and rehabilitation において、教育講演を担当

大会長講演

**「作業療法の更なる発展のために、
われわれが行うべきこと」**

演者

第55回北海道作業療法学会学術大会 大会長

太 田 久 晶

(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)



第55回 北海道作業療法学会学術大会
大会長 太田 久晶

作業療法の更なる発展のために、われわれが行うべきこと

作業療法がさらに発展にするために何が必要であるのか、われわれが取り組むべきこととして、以下の2つの視点から私見を述べる。

■ 日々の臨床活動における挑戦

治療技術の進歩や治療プロトコルの設定等により、特定の症状に対する治療・訓練内容の質向上が認められている。その一方で、対応方法にはまだまだ検討が必要な症状や疾患は存在する。具体的な例として、半側空間無視（USN）を呈する患者の作業療法を考えてみる。

USNを呈する患者に対しては、複数の机上検査を実施する。得られた結果から、患者ごとで異なる症状特性が明らかとなる。しなしながら、その結果に基づいてどのような訓練プログラムを提供したらよいか明確な答えは得られない。また、机上検査に基づいて机上訓練を行ったとしてもADL場面に般化しないため、何をいつまで続けたらよいか、分からない。

机上検査では生活場面のUSN症状をとらえることができないため、行動観察評価が必須となる。FIMなどで介助量の評価のみでは、治療訓練内容の絞り込みができない。よって、各動作の工程を細かく観察することで、できること／困難なことが明らかになる。しかし、ADL場面での困難な点とその特徴が明確になったとしても、その先として、どのように訓練を展開することが効率的で効果的であるのか、不明である。

このような臨床で抱く疑問解決に挑むことが、作業療法の更なる発展の一助になるのではないかと考える。

■ 臨床実践の共有

臨床実践の経験を作業療法士が共有することは、作業療法の底上げにつながる可能性がある。その共有方法の1つが、本学術大会を含めた学会での発表である。上手くいった経験や結果は、他の作業療法士にも役立つ情報となる。内容によっては、明日に臨床に生かすことができる場合がある。また、うまく行かなかった、または難渋したケースについては、その理由や考察とともに発表いただきたい。この場合、座長や参加者も一緒に考えてくれ、出された意見やコメントが、今後の臨床活動のための糧になると考える。様々な症例が存在する中、自分ひとりが臨床で経験できる症例数には限度がある。よって、発表がなくとも学会に参加することで作業療法の実践に関する知識を増やすことができる。対面方式であれば、演者と直接やり取りができるメリットがある。

本大会では、若い会員が発表しやすいように、一般演題のサブカテゴリーとして、座長のサポートが受けられるビギナー演題の登録区分を設けた。加えて、参加者や座長との質疑応答の時間を増やしたディスカッション重視演題のエントリー区分を用意した。こうした演題区分も活用いただき、臨床経験年数に関係なく、それぞれの学び・経験を積極的に共有いただきたい。

太田 久晶 (おおた ひさあき)

●略歴

- 1997年 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科卒業
 - 1999年 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻内部・高次機能障害学講座高次機能障害学修士課程修了
 - 2002年 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻内部・高次機能障害学講座高次機能障害学博士課程修了
 - 2002年 フランス国立衛生医学研究所第534 ユニット空間行動研究室 特別研究員
 - 2003年 医療法人医仁会中村記念病院リハビリテーション技術部 作業療法士
 - 2005年 札幌医科大学附属病院リハビリテーション部 作業療法士
 - 2012年 札幌医科大学保健医療学部作業療法学第一講座 教授
- 現在に至る

●所属学会・団体

- ・日本高次脳機能学会 (代議員)
- ・日本神経心理学会 (理事)
- ・北海道作業療法士会 (常任理事)
- ・日本作業療法士協会

シンポジウム

「MTDLP 導入の利点と その課題について」

シンポジスト

医療法人ひまわり会 札幌病院

荒井 英俊 氏

社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター

森田 和幸 氏

医療法人社団函南会 あしりべつ病院

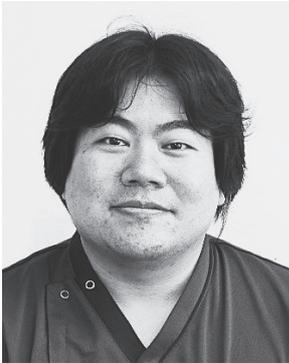
平田 和貴 氏

座長 坂上 真理 氏

(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

6月21日(土) 13:10~14:40

メイン会場：ライフオーホールⅡ,Ⅲ



医療法人ひまわり会 札幌病院
リハビリテーション療法部 課長代理
荒井 英俊

作業療法士の標準装備を着実に身に着ける

「クライアント自身が自身の為にしたい/する事が期待されている生活行為のために自身で行動すること」を助けることが作業療法士の大切な仕事だと考えている。

しかし、実際の作業療法では思うようにいかないことも多く経験する。その度に「これは“私”が立てた目標では？」「“便利屋さん”や“機能訓練士”になっていないだろうか？」「チームの力を引き出せているのか？」「作業をすることで元気になれることを伝えられたのだろうか？」「この取り組みでよかったのか？」など反省する日々である。

そのような中において、先人の作業療法士の臨床思考を可視化した生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）はその思いに応える糸口として私を助けてくれている。なぜなら、MTDLPの実践はクライアントの思いと生活全体をとらえるアセスメントを通して目標設定に向けた検討を繰り返す特徴がある為、クライアント中心の具体的な作業目標を設定しやすくしてくれるからである。その上、仲間の役割を活かしながら、チーム一丸となって作業の目標達成に向け取り組むことに意識を向けやすくし、かつ、この過程についてシートを通して振り返ることで必要な修正や、別のクライアントの介入にも活かすことができるからである。だからこそ、このMTDLPは作業療法士であれば標準装備として身に着けて置くべき道具であると信じている。

そうはいつても、MTDLPの導入と定着には様々な壁もあるだろう。しかし、このようなことを書いては先人の作業療法士に指摘されてしまうかもしれないが、MTDLPは今までにない新しい知識や技術を取り入れたものではない。日本作業療法士協会も挙げている作業療法過程そのものであり、作業療法士であればしっくりくるはずの道具である。しかし、道具だからこそ、便利だと感じられるか、役に立つと感じられるかによって定着は変わってくるだろう。

そこでここでは、クライアントの作業のバトンを受け、そして渡すことの多い身体障害領域（回復期）を中心としたMTDLPの導入の利点と課題について話をさせていただく。普段用いている「主観を伴う言葉の使い方」や「その人とらえるものの見方」、「成長していく自分自信の楽しみ方」「部分的なMTDLPの活用の仕方」など明日からの臨床で導入できる内容をお伝えしたいと考えている。

クライアントと共に生み出した目標に向かいクライアント自身が動き出し、その動きを仲間や制度で支援するというMTDLPの特徴は、クライアントへの好影響だけではなく、作業療法士にとってもやりがいを感じさせてくれるものだと信じている。また、多くの作業療法士がMTDLPを標準装備として用いることは作業療法士の社会的認知にもつながるだろう。是非、小さなところからでもMTDLPを現場で使ってみてほしい。明日からの臨床の参考になれば幸いである。

荒井 英俊 (あらい ひでとし)

●略歴

- 平成21年 3月 国際医療福祉大学 卒業
- 平成21年 4月 - 医療法人ひまわり会 札幌病院 入職
- 平成31年 3月 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 博士課程前期修了
- 平成31年 4月 - 札幌医科大学大学院 訪問研究員

●所属学会

- ・日本作業療法学会
- ・北海道作業療法学会
- ・日本臨床作業療法学会
- ・北海道作業遂行研究会
- ・運動器作業療法研究会
- ・認知神経リハビリテーション学会

●資格

- ・公認心理師
- ・認定作業療法士
- ・生活行為向上マネジメント指導者
- ・臨床実習指導実践研修修了者
- ・運転と地域移動支援実践者
- ・Assessment of Motor and Process Skills (AMPS) 認定評価者
- ・Assessment of Awareness of Occupational Performance (AAOP) 認定評価者
- ・Evaluation of Social Interaction (ESI) 認定評価者
- ・The ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE) 認定評価者
- ・ASSESSMENT OF QUALITY OF ACTIVITIES (A-QOA) 認定評価者
- ・福祉用具プランナー
- ・福祉住環境コーディネーター 2級
- ・福祉情報技術コーディネーター 1級
- ・両立支援コーディネーター
- ・認知症サポーター
- ・高齢者入浴アドバイザー など

●主な論文・学会発表等

修士論文

- ・ADL能力に対する自己認識をその工程ごとに評定できる評価法の開発

日本作業療法士協会 事例報告

- ・イメージを用いた訓練・自主訓練により、日常生活場面での麻痺側上肢の使用が増加した脳梗塞症例
- ・MTDLPを用い入院直後から退院後の生活を想定し、具体的な目標を共有することで自宅退院できた一事例
- ・サイドミラーアプローチにより停滞した空間認知能力に改善が得られ友人付き合いを再開できた脳出血事例
- ・健忘症の自己認識への介入と家族指導により家庭・社会復帰できた前脳基底部損傷患者

学会発表

- ・The difference in the improvement of ADL performance and self-awareness by a presence of a feedback(2 case study)
- ・失行を呈する患者における生活行為の観察を取り入れた有効性
- ・半側空間無視患者に対するロッドアダプテーションが線分二等分試験,ADLの遂行の質に与える効果
- ・半側空間無視を認める症例に対するサイドミラーアプローチが空間認知に与える効果
- ・「メモリーノートの使用」と「記憶障害の自己認識」の関係について-記憶障害症例より-
- ・脳卒中者における予測が難しいm-FIM項目は何か-的中度による群別化と比較より-
- ・脳卒中患者における「作業の経験」が「作業遂行の困難さについての認識」に与える影響について
- ・健常者における運転シミュレーターの実施回数と評価結果の関連について
- ・仕事をしている若年健常者の運転技能の日内変化について-運転シミュレーターの結果より-
- ・脳卒中患者における「できるADLとしているADLの差」と「健康統制感」の関係
- ・m-FIM利得、及び、動機づけの視点から見たモーニングケアの効果について
- ・セラピストが期待する外出訓練の効果を患者はどのように感じているのか など



社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
リハビリテーション部 作業療法科 科長
森田 和幸

臨床実習と院内教育におけるMTDLPの活用

生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）は、「作業療法を見える化したマネジメントツール」であり、平成20年から日本作業療法士会で開発され、内外に向け様々な普及活動が進められてきた。

教育においても、2019年には作業療法士養成教育モデル・コア・カリキュラムにMTDLPが含まれ、現在は多くの養成校でMTDLPの授業が取り入れられており、MTDLPを全く知らないで養成校を卒業する学生はほとんどいない状況である。

臨床実習においてもMTDLPの活用が望まれている。臨床実習指導者研修の中にMTDLPが入っており、研修を受講した方であれば臨床実習でのMTDLPを活用するメリットやデメリットについてディスカッションをした記憶があるのではないだろうか。しかし、実際の臨床実習現場での活用はまだまだ十分とは言えない状況である。関東圏では養成校が中心となって、MTDLPを用いた実習の促進がされているという話を聞いたことはあるが、北海道のMTDLP指導者グループが行ったアンケートではほとんど活用されていない現状が明らかとなった。これには臨床実習指導者がMTDLPを使用していない、領域によっては使用しにくいなどの問題があると思われるが、私は指導者として複数回MTDLPを使用した臨床実習を経験し、その中で様々なメリットを感じている。例えば、手順が決まっていることで一貫した指導が行えることや、シートを使用して可視化することで学生がどこまで理解しているか把握しやすいことなどがある。自分が実習生であった頃は、実習地や指導者によって教え方が異なり、様々な視点を学ぶことはできたが、その考えを学ぶことに苦労した記憶がある。しかし、MTDLPを活用した臨床実習を一貫して行えることができれば、学生は実習前に学内で学んだことを復習することで事前準備ができ、評価実習で経験したことを治療実習にも生かしやすいのではないだろうか。

また、当院では数年前から院内教育としてもMTDLPを取り入れ、科内研修の中でMTDLPについて講義や事例検討会を行っている。これには経験年数が浅いうちにMTDLPのプロセスを経験することで、一連の作業療法の思考過程を学んでほしい狙いがある。多忙な業務の中でMTDLPを毎回使用することは難しいが、MTDLPを一度活用することで、一連のプロセスが頭の中に入り、可視化しなくてもほかの患者様に当てはめていくことができるようになると思う。

今回は、こういったMTDLPを実習や院内教育で活用するメリットや、私が活用して感じたコツ、実際の活用事例や取り組み、普及していくための課題などを私見も踏まえお伝えすることで、臨床実習や院内教育でMTDLPが活用されていくきっかけになれば幸いである。

森田 和幸 (もりた かずゆき)

●略歴

- 平成21年3月 札幌リハビリテーション専門学校 卒業
- 平成21年4月 - 社会医療法人北斗 北斗病院 入職

●所属学会

- ・日本作業療法学会 ・北海道作業療法学会

●資格

- ・認定作業療法士 ・生活行為向上マネジメント指導者
- ・The ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE)認定評価者

●主な論文・学会発表等

日本作業療法士協会 事例報告

- ・回復期リハ病棟で入院1か月後よりMTDLPを導入し、自宅復帰に向けたADL自立と料理獲得に繋がられた一例
- ・通所リハでのリハ会議とMTDLPを活用した多職種連携により自宅での調理再開に繋がった事例
学会発表
- ・OTが障害者支援施設生活介護事業に関わることによる変化
- ・通所リハでの目標達成と社会参加に向けた取り組み
- ・当法人での臨床実習におけるMTDLP活用に向けた取り組みと実態調査
- ・AIにより回復期リハビリテーション病棟脳卒中症例の退院時運動FIMを予測できるか
- ・回復期リハビリテーション病棟での退院時運動FIMの予測～AI予測分析ツールを用いて～
- ・回復期リハ病棟入院時の栄養状態が退院時FIM・実績指数・帰結先に与える影響
- ・AIを用いた回復期リハビリテーション病棟での退院時運動FIM予測結果に対する外れ値の検出と要因分析について



医療法人社団 関南会 あしりべつ病院
平田 和貴

精神障害領域のMTDLP導入の利点とその課題 ～精神科急性期治療病棟で実践してみても～

2004年、厚生労働省が精神保健医療福祉の改革ビジョンにおいて、「入院医療中心から地域生活中心へ」と基本方針を掲げ、それから約20年が経過した。その中で、精神科病院においては、精神科救急医療システムの整備と病床の機能分化、精神疾患を予防するための早期介入、発症後の早期治療と早期リハビリテーション、早期退院促進、地域生活移行支援を進めてきた。

精神科において、これらの早期実現、移行の推進のためには、集団プログラムのみならず、対象者一人一人に合わせた個別的支援を併せて行っていくことが重要といえる。しかし、精神科作業療法の実践の場における現状は、診療報酬等の兼ね合いから未だ集団プログラムが主であり、対象者ごとの生活行為に焦点が当てきれないという懸念がある。

その点で、生活行為向上マネジメント（Management Tool for Daily Life Performance: MTDLP）は、「対象者の望む・改善したい生活を構成する生活行為」に焦点を当て、その生活行為を実現するために開発された評価ツールである。さらには、我々が普段から行っている評価や治療の流れを、MTDLPを用いることで可視化できるとの利点も兼ね備えていると認識している。

このMTDLPが開発され、講習会等が開催され始めてから10年以上が経過した。近年では、基礎研修受講者や事例検討会への参加者は増加傾向にあり、また、作業療法学生に対する臨床実習においても、MTDLPを活用した実習が増えてきていると実感している。しかし、導入状況は、病院や地域、さらには領域、介入時期によっても差が生じているように感じる。MTDLPに関する文献を参照すると、精神障害領域における事例数は以前よりは増えたものの、他領域に比べ、論文としての報告数が少ないことや、事例検討会における同領域での発表を目にする機会も少ないように感じる。

医療法人社団 関南会 あしりべつ病院（以下、当院）では、2019年に精神科急性期治療病棟を設置した。設置以降、主に当病棟に携わってきた。MTDLP推進に向けた課題として、急性期であることや精神障害領域といった部分が講習会でもよく挙げられている。そのような現状を確かめるうえでも、昨年より精神科急性期治療病棟に入院されている方を対象に、MTDLPを導入し経過を見てきた。本学会シンポジウムでは、「MTDLP導入の利点とその課題について」がテーマである。当院でMTDLPを導入したうえで見えてきた利点や現状、課題について取り上げ、シンポジストの先生方、ご参加いただいた方々とディスカッションを深めていければ幸いである。

平田 和貴 (ひらた かずき)

●略歴

2010年3月に札幌医科大学保健医療学部作業療法学科を卒業。同年に作業療法士免許取得。卒業後、JA北海道厚生連倶知安厚生病院、医療法人社団函南会あしりべつ病院で勤務し、現在に至る。2024年札幌医科大学保健医療学研究科博士課程前期修了。修了後も札幌医科大学訪問研究員として、精神疾患を抱える方の認知機能やMTDLPに関連した研究を継続して実施している。

●所属学会

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会

●主な業績

【共同著書】

作業療法概論 15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト

太田久晶、平田和貴、総編集:石川朗、種村留美、責任編集:仙石泰仁、野田和恵 (担当:分担執筆、担当範囲:作業療法の実際 (1) 急性期・回復期)

中山書店 2023年11月 ISBN:9784521750484

教育セミナー 1

「明日から使える評価・ 治療訓練」

演者

社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院

佐藤 大樹 氏

社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道 済生会小樽病院

山中 佑香 氏

医療法人社団明生会 イムス札幌リハビリテーション病院

齊藤 雄一郎 氏

座長 **中村 充雄 氏**

(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

6月21日(土) 14:50~16:20

メイン会場：ライフオーホールⅡ,Ⅲ



社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
佐藤 大樹

橈骨遠位端骨折の症例をみながら運動器疾患の作業療法評価、 治療について考えてみた

運動器疾患に対する作業療法と聞いてみなさんはどのようなことを考えるでしょうか？難しい？シンプル？みなさんいろいろなことを思い浮かべるのではないかと思います。ハンドセラピーの分野は解剖学的な知識がたくさん必要だという印象もあるかと思います。今回のセミナーでは運動器疾患を患う方への作業療法の何が他領域と比べて特色なのか、何が難しく感じるのかを考えてみようと思います。時間も限られていますので、代表的な骨折であり、他疾患の患者さんにも合併することも多い橈骨遠位端骨折の治療を例に挙げながら、他の運動器疾患にも汎化できる知識を交え、運動器疾患患者に対する作業療法について考えてみようかと思います。

「運動器＝解剖学、生理学」という構図は誰しもが思い描くイメージかもしれませんが、作業療法士の知識を活かすのであれば、身体機能・構造に起因する運動と、動作や活動を結びつけ、障害部位の治療を促す(阻害しない)ようにしながら最大のパフォーマンスを目指す必要があると考えます。私自身がすべてを会得しているわけではありませんが、橈骨遠位端骨折を例にとり、評価や療法の進め方を可能な限りvisualを駆使し、周辺知識を拾いながらお伝えします。経験年数の浅い皆さんにもわかりやすく、普段運動器分野に従事している皆さんにも共感、新たな気付きがあるように、未来につながる技術や見識をお伝えできるような内容となるよう努めます。

佐藤 大樹 (さとう だいき)

●略歴

札幌市出身、認定作業療法士

2010年作業療法士免許取得

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科卒業

同年 社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院リハビリテーション科 入職
ハンドセラピー分野を中心として急性期整形外科分野に従事し、現在に至る。

●所属学会、委員

・所属

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本ハンドセラピー学会

・委員

2019年～ 北海道作業療法士会道南支部教育部副部長

2022年 北海道作業療法士会白書委員会委員

●業績

・ Dupuytren拘縮に対する手掌腱膜切除術後のハンドセラピーの治療成績：背側伸展制限スプリントを用いたプロトコルは有用なのか？ 北海道作業療法 35 (2), 103-109, 2018

・ 特集2 手の疾患5 <7>手のリハビリテーション 整形外科看護 25 (7), 676 - 678, 2020

以上



社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道 済生会小樽病院
山中 佑香

緩和ケアから考える明日からの作業療法

がんは不治の病と言われた時代から、共存する時代へ変わりました。しかし、緩和ケアの作業療法は「死」と隣り合わせであることは確かです。作業療法士は様々な手段で身体・精神機能を再獲得し、社会復帰を支援する職業として教育を受けています。そのため、「死」と隣り合わせの患者さんにどのような言葉をかけたら良いのか、再獲得や社会復帰が難しい患者さんに、どんな目標を設定したら良いのか、そして、毎日何をしたら良いのか、作業療法の専門性は何か。患者の心理に直面する経験不足、理解不足、不安から、難しいと感じるのは普通のことです。私の経験上、これらを学ぶ機会は少ないと考えます。

緩和ケアを行う臨床現場では、他の身障領域と同じで、トップダウンとボトムアップを同時に行います。Keyになるのは、WHOの緩和ケアの定義です。この定義から、最終目標は痛みを中心とした身体・精神機能への予防と対処を行うこと、そしてQOLの向上です。痛みは、スピリチュアルな（霊的な・魂の）問題を含み、身体機能だけではなく、心理社会的に生じることを評価します。このスピリチュアルな痛みについては、作業療法のテキストを見ても詳しく書かれていることが少なく、勉強することが難しいです。本セミナーの中では、このスピリチュアルな痛みとは何かを中心に、これまで当院で経験した事例を交えながら説明し、作業療法士が「作品づくり」を通してできるアプローチを紹介します。そして、残されたご家族のインタビューから、作業療法で作成した作品が、残された家族にとって、時間の経過と共にどのように価値あるものへ変化するかをご紹介します。この経過を通して、今、目の前の患者さんにできること、作業療法の専門性を考えます。

2024年度診療報酬改定において、意思決定支援の基準が設けられ、厚生労働省は「人生の最終段階における医療の決定プロセスによるガイドライン」を発表しました。作業療法士は、日常生活動作を中心に個々のニーズを引き出す面接技法や治療・代替手段を実践する職業です。その強みを最大限に活かし発展させている当院の活動、作業療法士が行うAdvance Care Planning (ACP) を紹介させていただきます。

本セミナーでは、「がん」における緩和ケアのご紹介ですが、予後が限られている難病、全く同じ機能を再獲得することが難しい整形外科領域の重度外傷や切断などにも通じる考え方となります。ぜひ、領域問わず、緩和ケアの作業療法を学ぶことで、日々の臨床をブラッシュアップしましょう。みなさんが担当する患者さんのために、現地で「明日から使える評価・治療訓練」を学び、作業療法士としてできることを一緒に考えましょう。

山中 佑香 (やまなか ゆか)

●略歴

- 2004年 日本福祉リハビリテーション学院卒業
- 2004年 函館中央病院勤務
- 2009年 済生会小樽病院勤務，緩和ケアチーム立ち上げに関わる。
- 2021年 終末期・緩和ケア研究会 年次大会（北海道）大会長。
- 2024年 北海道文教大学リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻卒業

●所属学会等

日本作業療法学会，北海道作業療法学会，終末期・緩和ケア研究会北海道代議員，札幌がんリハビリテーション実行委員，日本手外科学会，日本ハンドセラピィ学会，日本骨折治療学会，日本肘関節学会，北海道整形災害外科学会。

●主な業績

- ・ 5指駆動型の筋電義手であるbebionicハンドを適用した片側前腕切断症例。作業療法43巻3号，2024
- ・ 労災補償制度による筋電電動義手を適用した片側前腕切断症例。作業療法の実践と科学3巻3号，2019
- ・ 橈骨遠位端骨折の対する掌側ロックングプレート固定術後の長期成績。日本手外科学会誌35巻6号，2019 他

●著書

- ・ 15レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 義肢装具学（分担執筆：義肢・装具の支給体系とチームアプローチ），中山書店
- ・ 上肢運動器疾患の画像リハビリテーション 評価・戦略のアプローチのすべて（分担執筆：母指CM関節症），ヒューマンプレス



イムス札幌リハビリテーション病院
齊藤 雄一郎

高齢期の作業療法～退院後のクライアントの生活を考える～

私はイムス札幌リハビリテーション病院で勤務して13年目になります。これまで回復期病棟、一般障害病棟、外来リハビリ、通所リハビリと幅広い分野で経験を積んできました。当院では高齢の患者様が多く、脳血管疾患、整形疾患、内部障害など多様な疾患を抱える方々の退院支援に力を入れています。いかにして再入院を防ぎ、住み慣れた地域での生活を継続できるかを常に考えながら支援を行っています。

今回の教育セミナーでは、新人の作業療法士（OT）の皆さんを対象に、私の経験を言語化しながら、高齢期の退院支援についてお話しします。具体的には、退院時に利用できるサービスの種類、それぞれの適応対象、そして具体的な活用方法について説明します。

新人の頃、私自身も退院支援については先輩の理学療法士（PT）や医療ソーシャルワーカー（MSW）から学びながら、サービスの概要や適応基準を身につけていきました。しかし、退院支援には個別性が高く、一律のフローチャートでは判断できないという特性があります。年齢、家族関係、居住環境など、無数の変数が影響を及ぼすため、一人ひとりに合わせた柔軟な対応が求められます。

また、退院支援は医療者が一方的に決定するものではなく、クライアント本人や家族が主体的に判断することが重要です。私たち専門職は、総合実施計画書の説明や退院前カンファレンスを通じて、適切な情報や選択肢を提供し、クライアントの意思決定を支援する役割を担います。

退院支援を考える際、私が特に意識している3つの視点があります。

活動量の視点 - 退院後の生活において、どれくらいの活動量があるかを評価し、支援の内容を調整する。

作業の結びつきの視点 - クライアントにとって意味のある作業を継続できるよう、環境設定やサービスを検討する。

リスク管理の視点 - 転倒や再発などのリスクを最小限に抑えるための対策を考える。

今回のセミナーでは、これら3つの視点を軸に、高齢期の退院支援について実践的な内容をお伝えします。本日の学びが、皆さんの今後の臨床に役立つことを願っています。

齊藤 雄一郎 (さいとう ゆういちろう)

●略歴

- 2012年 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科卒業
- 同年 手稲ロイヤル病院（現イムス札幌リハビリテーション病院）入職
- 2019年 札幌医科大学 大学院 保健医療学研究科 作業療法学専攻 作業科学分野 入学
- 2023年 同卒業
- 2024年～札幌医科大学 保健医療学部 訪問研究員

●所属学会

- 日本作業科学研究会

●主な業績

- 修士論文 地域在住高齢者における作業バランスの認識に関わる作業経験の特性についての質的研究 2023年
- 論文 手芸への挑戦を支援したことで生活の満足度を 高めることができた超高齢者の事例 作業療法の実践と科学2020年 2巻2号 p. 23-27
- 書評 Journal of Occupational Science (2022) 第29巻 1号

教育セミナー 2

「明日から使える評価・ 治療訓練」

演者

社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
迫 知 輝 氏

医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院
水 口 克 信 氏

医療法人喬成会 花川病院
片 桐 一 敏 氏

座長 中村 裕二 氏

(札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

6月21日(土) 16:30~18:00

メイン会場：ライフオーホールⅡ,Ⅲ



社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
リハビリテーション部作業療法科 主任
迫 知輝

如何にEBPを実践していくか ～子どもたちに限られた時間で治療効果を最大化するには～

近年、小児領域に限らずエビデンスに基づいた実践（Evidence based practice；EBP）に対する認識はさらに高まっており、発達障害領域・肢体不自由児領域ともに日本作業療法士協会にてガイドラインが作成され、治療などに対するシステムティックレビュー（Novakら、2019）も報告されてきています。

この潮流の中で、肢体不自由児を中心した小児作業療法領域における実場面でのEBPの取り組み方についてお話しさせていただきたいと思います。

EBPと聞くと、「臨床疫学的に立証されたエビデンス」の活用が目が行きがちかもしれません。

EBPとは、①患者様・利用者様の臨床的・身体的状況の考慮、②有効性や効果に関する研究エビデンス、③患者様・利用者様希望・行動、④左記の三つの考察をまとめ患者様・利用者様の納得のできる治療展開（Haynesら、2002）が必要であるとされています。

①：その方の全体的な状況についてリーズニングを丁寧に行うことが必要になります。ICFで見たときに心身機能・構造のみではなく、活動・参加はもちろん、環境因子・個人因子も考慮し、更に心身機能・構造についても数量的・定量的な結果のみではなく、動作・課題分析、動作パターンなど質的な解釈も丁寧に行うことが重要です。

②：その方への課題や治療効果を示すための評価や、治療内容において臨床疫学的に立証されているエビデンスの調査が必要です。

③：ご本人・ご家族の希望は、どこにあるのかを把握することです。小児領域の作業療法は、週に数回程度しか関われないことが多いです。そのような中で、OTが評価・治療したことを作業療法場面以外にどのように汎化させていくかが重要です。

ご家族の希望などに沿うことで、ご家族が在宅でもプログラムに取り組む可能性が高くなり、より多くの練習量を積むことができる（Novakら、2009）とされています。これは、ご家族に関わらず、他職種との連携においても重要です。

これらを加味した中での治療展開により、作業療法の効果の最大化が図れるのではないかと考えています。

また、小児領域の場合、ライフステージに合わせたアプローチの検討も必要になります。

本教育講演では、「こうすれば良い」というような「具体的な手順や手引き」ではないかもしれませんが、ライフステージごとで違う症例を提示し、上記の実践についてお話しします。

迫 知輝 (はざま ともき)

●略歴

- 2016年 3月 札幌医科大学保険医療学部作業療法学科 卒業
- 2016年 4月 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 勤務
- 2025年 3月 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 博士課程前期修了

●所属学会

- ・日本作業療法学会
- ・北海道作業療法学会
- ・日本発達系作業療法学会
- ・日本重症心身障害学会

●主な論文・学会発表等

修士論文

- ・視覚情報の制限が健常者および脳性麻痺児・者の把握力調整能力に与える影響

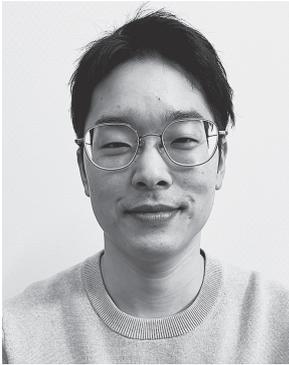
●著書

- ・作業療法士になるには (小児・発達領域を執筆) 2025年 5月刊行予定

●学会発表

- ・多職種共働での特殊便座作製により自力排便の再獲得と介助量軽減に至った一例
- ・当院の肢体不自由児における ADOC-S を用いた目標共有に対する取り組みについて—OT に実施したアンケートの結果分析—
- ・ホームプログラムにより, 日常場面で右手の参加が向上し, 両手での更衣動作を獲得した右片麻痺の一例
- ・仮想現実 (VR) 技術リハビリテーションが脳性麻痺患者に与えた効果—VR の課題特性に着目して—
- ・AIを活用した予後予測モデルのバリエーション分析 —Fugl-Meyer Assessment を用いた予測モデルに 着目して—
- ・Characteristics of grasping and coordinating ability of children with cerebral palsy when manipulating objects.
- ・当院のFMAのデータから上肢運動麻痺の重度例の機能的改善の傾向についての検討

など



医療法人風のすずらん会 江別すずらん病院
水口 克信

明日から使える評価・治療訓練 ～精神科作業療法のアセスメントとエビデンスベースドアプローチ?～

精神医療領域では近年、精神疾患の発病の誘因となるできごとや環境、ひいては病気そのものに抗し、跳ね返し克服する復元力や回復力を重視・尊重しようとするレジリエンスモデルが着目されている（田中 他, 2017）。レジリエンスとは、その語源を「跳ね返る」を意味するラテン語に持ち、特に心理学の文脈においては、困難な状況から回復する過程、結果、能力の3側面から捉える視点があり、それらを包括的に示した定義“困難で脅威的な状況にも関わらず、うまく適応する過程・能力・結果”（Masten et al., 1990）が広く受け入れられている。また精神医療・福祉領域においてサービス提供の中心概念となっているパーソナル・リカバリーは、精神疾患による制限があったとしても、何かに貢献し、希望をもち、満たされた生活を送ることを指す概念であるとされている（Anthony, 1993）。レジリエンスは、パーソナル・リカバリーを構成する概念のひとつと捉えられている（福田, 2020）。

精神科作業療法においては、対象者つまり一人の生活者が望むかつ望まれる生活の獲得と充実がかかわりのターゲットと捉えている。症状の緩和が対象者の苦痛を減らす方向には働くだろう。統合失調症でいえば幻覚妄想、気分障害でいえば抑うつ状態の緩和、依存症でいえば渴望の減弱など。しかし症状緩和がその先の生活の満足度を向上させる十分条件とは言えない。精神症状などにより非日常的な体験をしている患者に対しては、日常的な環境を保証するとともに、病的体験から抜け出すきっかけを作り、現実感を強化していくことが重要であるとされている（田中 他, 2017）。日々の関わりの中でセルフケアを助け、対象者の回復過程に合わせて好きな活動を見つけたり一緒に行ったりすることも、対象者のレジリエンスを高めることにつながる（梶原 他, 2024）。

本人には回復力があり、その邪魔をしないのが、重要と考えている。そのためにも、その人の状態・能力・機能の評価、環境や病歴を踏まえた背景要因の評価、希望や願いなどの対象者の語りに丁寧に耳を傾けることが介入に必要なことである。

今回は、その入り口である導入、平たく言えば出会い方や評価アセスメントについて検討したいと考えている。

水口 克信 (みずぐち かつのぶ)

●略歴

- 2013年4月～ 作業療法士免許取得後、医療法人北仁会旭山病院 入職
精神科急性期、依存症病棟、精神科デイケア、依存症デイケアにて従事
- 2017年3月～ 札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程前期修了
- 2020年7月～ 医療法人風のすずらん会江別すずらん病院 入職
精神科デイケア課にて精神科デイケア、復職支援に従事。→リハビリテーション課へ異動。入院作業療法を担当し依存症課を兼務（現在に至る）、精神科訪問看護にも携わる（2025年2月より）
- ASK依存症予防教育アドバイザー、WRAPファシリテーター。非常勤講師として作業療法学生や精神保健福祉士学生への教育にも従事している。

●所属学会等

- 日本作業療法士協会
北海道作業療法士会
日本アルコール関連問題学会
アディクション関連問題作業療法研究会
北海道A/CRA/FT研究会

●論文・著書等

- 水口克信, 山下聖子, 竹田里江: 日常生活場面の記憶に対する概念的符号化・文脈付けの有効性の検討. (作業療法, 2015)
- 佐藤嘉孝, 前田大輝, 水口克信, 山本菜々子: 難治性依存症と作業療法. 難治性精神疾患と作業療法: NOVA 2023,20-3 (分担執筆)



医療法人喬成会 花川病院
片桐 一敏

若手セラピストのための脳卒中片麻痺上肢リハビリテーション —評価から治療までの実践的アプローチ—

講演概要

脳卒中後の片麻痺上肢の機能回復には、適切な評価と個別の状態に応じた治療が不可欠である。特に、亜脱臼の予防と早期介入、電気刺激療法やロボット療法、装具療法の効果的な活用も重要となる。本講演では、若手セラピストが臨床で実践できる評価法と治療アプローチについて解説する。

内容

上肢麻痺の評価には、Fugl-Meyer Assessment (FMA)、Motor Activity Log (MAL)、体幹機能評価 (FACT)、Stroke Impairment Assessment Set (SIAS) などを用いる。FMAでは運動機能回復の定量的評価、MALでは日常生活での麻痺側上肢の使用頻度や質を把握できる。FACTを活用することで体幹機能との関連を考慮したアプローチが可能となり、SIASでは運動・感覚機能や筋緊張の評価などが簡便に行える。これらの評価を適切に組み合わせることで、治療の方向性を明確にできる。

次に、亜脱臼の評価と治療について述べる。亜脱臼は筋緊張低下や不適切なポジショニングによって発生しやすく、視診・触診、指幅法、X線、エコー検査などを用いた評価が有効である。治療としては、ポジショニング管理や体幹・肩甲帯の安定化訓練、軽負荷での可動域運動が推奨される。また、電気刺激療法 (FES/NMES) を用いることで、三角筋や棘上筋を刺激し、関節の安定化を図ることができる。

介入時期の重要性についても議論する。急性期では早期離床と予防的介入が重要であり、関節可動域の維持や亜脱臼予防に重点を置く。回復期には課題指向型訓練や電気刺激療法、ミラーセラピー、上肢ロボット訓練、装具などを活用し、麻痺側上肢の自主的な使用を促す。慢性期では、日常生活動作 (ADL) の改善を目指し、運動の習慣化を支援することが求められる。

本講演では、これらの評価と治療を臨床でどのように組み合わせ、対象者の生活背景を考慮した実践的な介入を行うかについて具体的に解説する。若手セラピストが実践しやすい手法を紹介し、明日からの臨床に活かせる知識を共有する。

片桐 一敏 (かたぎり かずとし)

●認定作業療法士 作業療法学修士

●略歴

- ・2000年 北都保健福祉専門学校作業療法学科卒業（1回生）
- ・2013年 札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程前期修了

●職歴

- ・2000年～2006年：道北勤医協一条通病院 作業療法主任
- ・2006年～2015年：北都保健福祉専門学校作業療法学科 専任教員
- ・2015年～2017年：医療法人社団 生和会 登美ヶ丘リハビリテーション病院 課長補佐
- ・2017年～2018年：介護老人保健施設フェニックス
- ・2018年～現在：医療法人 喬成会 花川病院 リハビリテーション部 教務主任

●所属学会

- ・北海道作業療法学会 日本作業療法学会 北海道リハビリテーション学会

●主な業績（論文など）

- ・片桐一敏 他 (2018). 脳幹脳炎により one-and-a-half syndrome を呈した症例に対する作業療法の経験 ～複視のリハビリテーションに着目して～. 北海道作業療法.
- ・片桐一敏 他 (2019). 脳卒中重度弛緩性麻痺側上肢における作業療法 ～肩関節亜脱臼の改善と麻痺側上肢の自己管理に向けて～. 作業療法の実践と科学.
- ・片桐一敏 他 (2021). 脳卒中上肢機能の作業療法におけるアルゴリズムフローの試み ～当院回復期リハビリテーションにおける研究～. 作業療法の実践と科学.
- ・小島佳祐, 片桐一敏 (2022). 脳卒中片麻痺患者にハイブリッドな上肢訓練を短期間で実施した症例 ～Keyformを参考にして～. 作業療法の実践と科学.
- ・片桐一敏 他 (2024). 脳卒中後の座位保持困難な症例に対する ReoGo®-J を用いた体幹機能訓練効果 ～クロスオーバーデザインを用いた検証～. 北海道リハビリテーション学会雑誌.
- ・その他, 臨床実習指導実践研修修了者. 作業療法臨床実習教育や臨床指導に関する内容を作業療法ジャーナルなどに執筆. 日本作業療法学会演題審査者など.

演題プログラム

口述発表

口述① 身障 I

2025年6月21日(土) 13:10~14:10 アニマート I
座長：北海道文教大学 金谷 匡紘氏

- O-01-01 **軽度足部感覚鈍麻によりドライビングシミュレータ検査の低下を招いた急性期脳疾患事例に対する運転再開支援**
平 典起¹⁾
1) 旭川赤十字病院 医療技術部 リハビリテーション科
- O-01-02 **アクセルペダルデバイスを用いた自動車運転時の速度調整能力について—若年者と高齢者の比較から—**
山田 恭平¹⁾, 佐々木 努¹⁾, 北村 侑瞳¹⁾, 高橋 巧¹⁾, 滝本 萌夏²⁾, 土谷 圭央³⁾
1) 北海道千歳リハビリテーション大学
2) 苫小牧工業高等専門学校
3) 香川大学
- O-01-03 **地域高齢者における運転中止からの経過期間と健康状態, 主観的健康感, 生活の不便感の関連—横断研究**
佐々木 努¹⁾, 山田 恭平¹⁾, 那須 識徳²⁾, 山北 武³⁾
1) 北海道千歳リハビリテーション大学
2) 農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
3) 千歳市介護予防センター
- O-01-04 **脳卒中の運転中止に対する意識の変化に関連する要因—横断研究**
小林 利行¹⁾, 松下 祐也²⁾, 山田 恭平³⁾, 佐々木 努³⁾
1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院
2) 溪和会 江別病院
3) 北海道千歳リハビリテーション大学
- O-01-05 **【ディスカッション重視演題】
ドライビングシミュレーターによる半側空間無視評価の有用性—2症例の検討**
勝浦 駿平¹⁾, 齊藤 秀和²⁾, 飯田 滉大¹⁾, 尾田 優月¹⁾, 太田 久晶²⁾
1) 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部
2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

口述② 発達

2025年6月21日(土) 13:10~14:10 アニマート II
座長：北海道医療大学 依田 泰知氏

- O-02-01 **発達性協調運動症の児への過程指向型と課題指向型介入の併用が、運動スキル向上と活動参加・交流拡大に寄与した症例**
佐藤 匠¹⁾, 小玉 武志¹⁾
1) 北海道済生会 みどりの里

- 0-02-02 **低出生体重児に感覚統合遊具を用いた「ごっこ遊び」を通して対人意識の向上が得られた一例**
 橋 柁¹⁾, 中谷 優太^{1,2)}, 世良 彰康¹⁾, 飯田 敏貴¹⁾
 1) こども支援ルーム宮の沢
 2) 札幌医科大学大学院保健医療学研究科
- 0-02-03 **通所支援事業所の利用が「出席扱い」となり不登校状態から離脱できた一症例**
 小玉 武志^{1,2)}
 1) 発達支援事業所きっずてらす
 2) 北海道済生会みどりの里
- 0-02-04 **食事中の不適応行動に対して食べ物の提供形式に着目して介入した一事例**
 伊藤 竜哉¹⁾, 三谷 紘世¹⁾, 阿部 佳穂¹⁾, 黒崎 佳奈¹⁾, 小玉 武志¹⁾, 中村 裕二²⁾
 1) 北海道済生会 小樽病院 みどりの里
 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- 0-02-05 **入所施設の利用者に対する集団演劇活動を通じた社会参加の実現に向けた取り組み**
 三谷 紘世¹⁾, 小玉 武志¹⁾, 佐藤 匠¹⁾, 中村 裕二²⁾
 1) 北海道済生会 みどりの里
 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

口述③ 地域・高齢 I

2025年6月21日(土) 14:10~15:10 アニマート I
 座長：札幌・すがた医院 岩永 輝明氏

- 0-03-01 **【ビギナーズ演題】札幌市と厚岸町における介護予防事業に参加する高齢者のフレイルおよび散歩行動についての比較分析**
 田辺 千紘¹⁾, 瀬下 義正²⁾, 下木原 俊¹⁾, 横山 和樹¹⁾
 1) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
 2) 医療法人社団田中医院 デイケアセンターさくら
- 0-03-02 **千歳市での多職種連携による認知症予防の取り組みと今後の展望**
 山北 武¹⁾, 佐々木 努²⁾, 富永 壮³⁾, 作田 直人⁴⁾, 吉田 肇⁵⁾
 1) 千歳市社会福祉協議会 千歳市介護予防センター
 2) 北海道千歳リハビリテーション大学
 3) 千歳市北区地域包括支援センター
 4) 千歳病院認知症疾患医療センター
 5) 千歳市向陽台区地域包括支援センター

O-03-03 札幌市近郊に在住する高齢者における除雪の実施状況・除雪に関わる
困り事とフレイルの関連

横山 和樹¹⁾, 下木原 俊^{1,2)}, 田代 英之³⁾, 齊藤 秀和¹⁾, 勝浦 駿平⁴⁾,
宮嶋 涼⁵⁾, 島田 清貴⁶⁾, 山 功恭^{7,8)}, 井平 光²⁾, 池田 望¹⁾

- 1) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- 2) 日本学術振興会 特別研究員
- 3) 札幌医科大学 保健医療学部 理学療法学科
- 4) 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部
- 5) 江別市立病院
- 6) 札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座
- 7) 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科
- 8) 株式会社N・フィールド 訪問看護ステーション デューン札幌

O-03-04 北海道の地域在住高齢者における社会的フレイルとサルコペニアの関連
—端野・壮瞥町研究

長南 行浩^{1,2)}, 中田 圭²⁾, 大西 浩文²⁾

- 1) 札幌医科大学 医療人育成センター 教育開発研究部門
- 2) 札幌医科大学 医学部 公衆衛生学講座

O-03-05 【ディスカッション重視演題】
札幌市近郊に在住する高齢者における意味のある余暇活動の特徴
—実施形態の違いに着目して—

島田 清貴^{1,2)}, 横山 和樹³⁾, 下木原 俊^{3,4,5)}, 宮嶋 涼⁶⁾, 山 功恭^{1,7)},
池田 望¹⁾

- 1) 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科
- 2) 札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座
- 3) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- 4) 鹿児島大学 医学部 客員研究員
- 5) 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員
- 6) 江別市立病院 精神リハビリテーション室
- 7) 株式会社N・フィールド 訪問看護ステーションデューン札幌

口述④ 身障Ⅱ

2025年6月21日(土) 14:10~15:10 アニマートⅡ
座長：札幌・すがた医院 佐藤 飛友悟 氏

O-04-01 【ビギナーズ演題】
重度失語症に対する箸、爪切りに焦点を当てた上肢機能訓練の試み

太田 ひまわり¹⁾, 片桐 一敏¹⁾

- 1) 医療法人喬成会 花川病院

O-04-02 【ビギナーズ演題】
高次脳機能障害を呈しながらも復職に至った膠芽腫例に対する
作業療法の経験

尾田 優月¹⁾, 勝浦 駿平¹⁾, 太田 久晶²⁾, 齊藤 秀和²⁾

- 1) 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部
- 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

- 0-04-03 **【ビギナーズ演題】**
**麻痺手へのニーズに合わせた介入により日常場面での使用が
 拡大に至った一例**
 板東 しおり¹⁾, 迫 知輝¹⁾, 芦澤 理香¹⁾, 阿部 正之¹⁾, 白坂 智英²⁾
 1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
 2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療科 リハビリテーション部
- 0-04-04 **脳出血急性期における意識障害改善関連因子**
 松本 幸樹¹⁾, 高見 彰淑²⁾, 牧野 美里²⁾
 1) 旭川赤十字病院 リハビリテーション科
 2) 弘前大学大学院保健学研究科
- 0-04-05 **SDMを重視した目標設定が脳卒中患者の上肢機能改善および
 心理的变化に与える影響：e-ASUHSを用いた予備的検証**
 島森 諒太郎¹⁾, 松岡 耕史²⁾, 渡邊 愛記³⁾, 川口 敬之⁴⁾, 澤本 望¹⁾,
 鈴木 蓮¹⁾, 安達 亮太, 三村 浩司¹⁾
 1) 釧路孝仁会リハビリテーション病院
 2) 多摩丘陵リハビリテーション病院
 3) 神奈川県立保健福祉大学
 4) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

口述⑤ 基礎

2025年6月21日(土) 15:40~16:40 アニマート I
 座長：北海道千歳リハビリテーション大学 山田 恭平氏

- 0-05-01 **【ビギナーズ演題】**
**体幹機能を高めると身体の柔軟性は高まるか？
 ～ピラティスを用いたトレーニングによる検証～**
 長谷山 誓哉¹⁾, 近藤 希和¹⁾, 陳 誠¹⁾, 工藤 志沙¹⁾, 金子 翔拓²⁾
 1) 北海道文教大学人間科学部作業療法学科 学生
 2) 北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- 0-05-02 **スノーダンプ除雪における作業工程ごとの筋活動の特性**
 大坂 隆介^{1,2)}, 金子 翔拓¹⁾, 仙石 泰仁³⁾
 1) 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
 2) 札幌医科大学 大学院 保健医療学研究科 博士課程後期
 3) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- 0-05-03 **情報機器作業時の肩関節外転角度が肩甲骨面と顎間線の角度に与える影響**
 金子 翔拓¹⁾, 大坂 隆介¹⁾
 1) 北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- 0-05-04 **脳卒中後半側空間無視患者に対する没入型VRを活用した作業療法の
 臨床有用性の検討：単一事例研究**
 鈴木 蓮¹⁾, 島森 諒太郎¹⁾
 1) 釧路孝仁会リハビリテーション病院

O-05-05

【ディスカッション重視演題】

健常者の線分二等分課題において左半側空間無視を模擬したパフォーマンスを再現する没入型ヴァーチャルリアリティ（VR）ソフトウェアの開発

温井 啓太^{1,2)}， 一戸 蒼士³⁾， 和田 直史³⁾， 太田 久晶²⁾

1) 脳神経研究センター 新さっぽろ脳神経外科病院

2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

3) 北海道科学大学工学部情報工学科

口述⑥ 調査・教育

2025年6月21日(土) 15:40~16:40 アニマートⅡ
座長：北海道大学 高島 理沙氏

O-06-01

【ビギナーズ演題】

リハビリテーション学生における実習満足度と自己統制感の関連

田川 桃子¹⁾， 高橋 鈴¹⁾， 大本 慎也¹⁾， 吉田 嵩¹⁾， 窪谷 和泰¹⁾

1) 札幌リハビリテーション専門学校 作業療法士科

O-06-02

【ビギナーズ演題】

困難事例に対する作業療法士の認識と対処のプロセス：
文化的な差異に着目した質的記述的研究

山崎 真歩¹⁾， 高島 理沙²⁾

1) 北海道大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻

2) 北海道大学大学院 保健科学研究院

O-06-03

【ビギナーズ演題】

孤独感と役割に起因した「人生の目的の感覚」の変遷：質的記述的研究

徳永 真夢¹⁾， 高島 理沙²⁾

1) 北海道大学 医学部保健学科 作業療法学専攻

2) 北海道大学大学院保健科学研究院

O-06-04

【ビギナーズ演題】

作業療法士の身だしなみが信頼感に関わる印象形成に及ぼす影響
～髪色のトーンに着目した検討～

大野 琳菜¹⁾， 横山 和樹¹⁾

1) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

O-06-05

臨床実習生2名への同時指導に対するアンケート調査報告

木村 明博¹⁾， 今村 駿介¹⁾， 佐々木 朋華¹⁾

1) 医療法人社団研仁会 北海道脳神経外科記念病院

口述⑦ 身障Ⅲ

2025年6月21日(土) 17:10~18:10 アニマートⅠ
座長：札幌溪仁会リハビリテーション病院 小林 利行氏

- 0-07-01 **【ビギナーズ演題】**
脳卒中後急性期の重度上肢麻痺に対してセルフモニタリングを用いたことで抑うつ症状と麻痺手の改善を認めた一例
西川 知紗¹⁾，下田 晴昭¹⁾，清本 憲太^{1,2)}
1) 社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院リハビリテーション部
2) 日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- 0-07-02 **当院人工股関節置換術後の更衣動作獲得状況と認知機能の関連について**
阿部 祐子¹⁾，野々村 あかり¹⁾
1) 社会医療法人 博愛会 開西病院
- 0-07-03 **特発性肥厚性硬膜炎による脊髄症を呈した症例の作業療法経過**
飯田 滉大¹⁾，勝浦 駿平¹⁾，齊藤 秀和²⁾，太田 久晶²⁾
1) 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部
2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- 0-07-04 **女性脊髄損傷者における様々な合併症と自己導尿の実際**
菊地 咲輝¹⁾，京谷 政昭¹⁾，小島 虎太郎¹⁾，松本Harmon 聡子²⁾
1) 北海道せき損センター 中央リハビリテーション部
2) 北海道せき損センター リハビリテーション科
- 0-07-05 **【ディスカッション重視演題】**
**運動器慢性疼痛の重症度と作業遂行との関連
～地域在住の慢性腰痛患者を対象とした研究～**
石角 優太^{1,2)}，佐藤 飛友悟¹⁾，金子 翔拓²⁾
1) 医療法人社団 一視同仁会 札幌・すがた医院
2) 北海道文教大学 大学院 リハビリテーション科学研究科

口述⑧ 地域・高齢Ⅱ

2025年6月21日(土) 17:10~18:10 アニマートⅡ
座長：北海道医療大学 朝日 まどか氏

- 0-08-01 **【ビギナーズ演題】**
北海道医療大学の作業療法学生における地域貢献の意識と地域貢献活動の可能性
齋藤 みくる¹⁾，齋藤 隆司²⁾，浅野 葉子²⁾
1) 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科 学生
2) 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科
- 0-08-02 **「本人がしたい」活動に着目し役割支援を行った症例**
石川 昂大¹⁾，山本 英貴²⁾，小山内 康夫²⁾，高橋 邦彦²⁾
1) 社会医療法人母恋 老人保健施設母恋 リハビリ部門
2) 社会医療法人母恋 日鋼記念病院 リハビリテーションセンター

0-08-03 入院生活によりQOLが低下した認知症患者に対してA-QOA評価を用いて役割獲得につないだ事例

久保 柚月¹⁾, 塚田 えりか¹⁾

1) 医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院

0-08-04 調理活動の提供により自主訓練が定着した一例

河部 将幸¹⁾

1) 交雄会新さっぽろ病院 リハビリテーション室

0-08-05 失語・重度片麻痺を呈し機能に固執した症例にVQとOSA IIを用いた作業療法介入

杉本 恵¹⁾, 鈴木 謙啓¹⁾, 坂下 勇斗¹⁾, 杉本 隆¹⁾

1) 千歳豊友会病院 リハビリテーション科

口述⑨ MTDLP

2025年6月22日(日) 09:00~10:00 ライフォートホールⅡ・Ⅲ
座長：札幌病院 荒井 英俊氏

0-09-01 【ビギナーズ演題】
料理再開に向け、入院時から夫とMTDLPを使用して課題共有を実施した事例

西島 陸杜¹⁾, 阿部 来夢^{1,2)}, 齋藤 雄一郎¹⁾

1) イムス札幌内科リハビリテーション病院

2) 東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法学域 客員研究員

0-09-02 【ビギナーズ演題】
回復期病棟でMTDLPを導入し、家事動作とバスを利用した外出手段の獲得に繋がられた一例

村田 愛深¹⁾, 森田 和幸¹⁾, 阿部 正之¹⁾, 白坂 智英²⁾

1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科

2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科

0-09-03 【ビギナーズ演題】
MTDLPを活用した目標の設定により、本人の趣味である畑作業再開に繋がった症例

村尾 優華¹⁾, 森田 和幸¹⁾, 阿部 正之¹⁾, 白坂 智英²⁾

1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科

2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科

0-09-04 転倒をきっかけに、気づきを通して自宅生活の再構築に繋がった事例
～生活行為向上マネジメントツールを活用したアプローチ～

永桶 萌々子¹⁾, 阿部 来夢^{1,2)}

1) IMS (イムス) グループ 医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科

2) 東京都立大学 人間健康科学研究科 作業療法科学域 客員研究員

O-09-05

【ディスカッション重視演題】

精神科急性期病棟におけるMTDLPとFEPを用いた介入により生活能力の改善に繋がったせん妄・認知症患者の事例

平田 和貴¹⁾，伊藤 さやか¹⁾，森元 隆文²⁾，太田 久晶²⁾

1) 医療法人社団函南会 あしりべつ病院 作業療法課

2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

口述⑩ 身障Ⅳ

2025年6月22日(日) 09:00~10:00 アニマート I
座長：札幌徳州会病院 井部 光滋氏

O-10-01

【ビギナーズ演題】

肩関節唇損傷を呈したフィギュアスケーターの競技復帰までの関わり

羽石 祐香¹⁾，阿部 祐汰¹⁾，阿部 正之²⁾

1) 社会医療法人北斗 北斗病院 リハビリテーション部 作業療法科

2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科

O-10-02

橈骨遠位端骨折掌側ロッキングプレート固定術後患者の安全な自動車ステアリング操作可能時期の検討

白戸 力弥^{1,2)}，五嶋 渉²⁾，高橋 靖明²⁾，杉下 智香²⁾，山中 佑香²⁾

1) 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科

2) 済生会小樽病院 作業療法課

O-10-03

**橈骨遠位端骨折術後，運動恐怖を認めた症例
－ADOC-DRFを用いた治療経験－**

奥野 大樹¹⁾，大窪 悠真¹⁾，東 弘幸¹⁾，鷺野 紗季¹⁾，石田 和宏¹⁾，
竹内 裕介²⁾，浦田 健児²⁾

1) 医療法人社団 我汝会 えにわ病院 リハビリテーション科

2) 医療法人社団 我汝会 えにわ病院 整形外科

O-10-04

スプリントの工夫により早期退院が可能となった左上下肢不全麻痺を呈した右肘内側上顆炎術後症例

高橋 靖明^{1,2)}，山中 佑香^{1,2)}，五嶋 渉^{1,2)}，杉下 智香^{1,2)}，須貝 隆旗^{1,2)}

1) 北海道済生会小樽病院 手・肘センター リハビリテーション室作業療法課

2) 北海道済生会小樽病院 リハビリテーション室 作業療法課

O-10-05

前腕回内制限の改善に難渋した左橈尺骨骨幹部骨折術後の一症例

五嶋 渉¹⁾，白戸 力弥²⁾，高橋 靖明¹⁾，杉下 智香¹⁾，山中 佑香¹⁾

1) 済生会小樽病院 リハビリテーション室

2) 北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科

- O-11-01 **【ビギナーズ演題】
ドライビングシミュレーターの練習課題が運転機能の獲得に有効であった症例**
梅内 翔大¹⁾, 佐藤 陵¹⁾, 木下 和海¹⁾, 阿部 正之¹⁾, 白坂 智英¹⁾
1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部
- O-11-02 **ADOCとMALの併用が麻痺手の主体的な目標設定に有用だった一症例**
柴田 亜実¹⁾, 片桐 一敏¹⁾
1) 医療法人喬成会 花川病院
- O-11-03 **活動日記とSEIQoL-DWを用いた対話が生活設定の合意に有用であった
パーキンソン病患者の事例**
富居 泰臣¹⁾, 石川 朝子¹⁾
1) 医療法人溪仁会 札幌西円山病院
- O-11-04 **早期復学が必要なギラン・バレー症候群の症例に対する効果的な介入方法の検討**
梶 由弥¹⁾, 荒井 英俊¹⁾
1) 医療法人ひまわり会 札幌病院
- O-11-05 **肩関節痛への不安と上肢使用頻度に着目し意志や習慣に変化を与えた一症例**
川幡 神楽¹⁾, 吉田 周太¹⁾, 森下 諒¹⁾, 西野 早紀¹⁾, 杉本 隆¹⁾
1) 医療法人社団豊友会 千歳豊友会病院 リハビリテーション科

ポスター発表

ポスターセッション1

2025年6月21日(土) 15:10~15:40 ライフォートホール I

- P-01-01 **作業療法士の専門性を活かした相談支援事業への展開に関する一考察**
高橋 勇葵¹⁾
1) 合同会社あいびー
- P-01-02 **訪問作業療法により、入力機器導入に向けて介入した一例**
寺山 紗也佳¹⁾, 齋藤 大地¹⁾
1) 株式会社はこぶね 訪問看護ステーション ワッカ
- P-01-03 **眼球運動への介入により捕球動作と巧緻動作に改善がみられた発達性協調運動症の一例**
武田 朋恵¹⁾, 中島 そのみ²⁾, 佐々木 礼¹⁾, 藤井 美由紀¹⁾
1) 有限会社どれみ 永山こども発達支援センター ぼの
2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- P-01-04 **健常成人、発達障害児における消しゴムの把持形態の分類**
宮田 双葉¹⁾, 中島 そのみ²⁾, 仙石 泰仁²⁾
1) 札幌医科大学大学院保健医療学研究科
2) 札幌医科大学保健医療学部
- P-01-05 **母子関係に着目したホームプログラムから日常生活活動の改善を目指した一事例**
千葉 彩果¹⁾, 吉田 嵩²⁾
1) 有限会社真心 児童通所支援センター クオレ美唄
2) 学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校 作業療法士科
- P-01-06 **知的障がい特別支援学校高等部で実施した遠隔作業療法支援—教員への質問紙調査から見た成果と課題—**
池田 千紗¹⁾, 中島 そのみ²⁾, 大澤 優亮³⁾, 佐藤 隼³⁾, 仙石 泰仁²⁾
1) 北海道教育大学
2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科作業療法学第二講座
3) 北海道星置養護学校ほしみ高等学園
- P-01-07 **OPCを基盤とした生活支援員と作業療法士の協働
~利用者の思いに沿う支援の実現のために~**
高橋 慶多¹⁾, 畠山 健一朗²⁾, 三和 彩¹⁾, 中山 雄介¹⁾
1) 美幌療育病院 診療部 リハビリテーション科 作業療法士
2) 美幌療育病院 療育部 生活支援員
- P-01-08 **訪問リハにて目標共有と家族参加型の自主トレーニングの導入から
屋外での活動に繋がった一例**
佐藤 祐太¹⁾, 森田 和幸¹⁾, 阿部 正之²⁾, 白坂 智英³⁾
1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 先進リハビリテーション推進室
3) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療科 リハビリテーション科

- P-01-09 **神経発達症児に対して，学校適応のために実施した問題解決の実践報告**
 佐藤 和正¹⁾，才野 均¹⁾
 1) 北海道立子ども総合医療・療育センター
- P-01-10 **認知症の診断後支援としての精神科外来作業療法の可能性と課題
 ～運転免許返納後の事例を通して～**
 宮嶋 涼¹⁾，横山 和樹²⁾，山下 いずみ¹⁾，土居 恵¹⁾，松山 清治¹⁾，
 池田 望²⁾
 1) 江別市立病院 認知症疾患医療センター
 2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
- P-01-11 **転院時の食事未摂取から摂食方法が変化した症例に対する再学習に向けた
 取組み**
 杉垣 陽波¹⁾，小玉 武志¹⁾，佐藤 匠¹⁾，中村 裕二²⁾
 1) 北海道済生会みどりの里 機能訓練課
 2) 札幌医科大学保健医療学部 作業療法学科
- P-01-12 **反復性うつ病者のリカバリーを支えるクライシスプラン
 ：精神科訪問看護における事例報告**
 山 功恭^{1,2)}，和宇慶 育子¹⁾，佐藤 尚子¹⁾
 1) 株式会社N・フィールド 訪問看護ステーションデューン札幌
 2) 札幌医科大学大学院保健医療学研究科
- P-01-13 **遠隔リハビリにより、上肢機能とリハビリの認識に変化を認めた一症例**
 齊藤 亜沙美¹⁾，菊地 真広¹⁾，須藤 麻央²⁾，金子 翔拓²⁾，沖田 勇帆³⁾，
 佐伯 輝明⁴⁾
 1) 株式会社SHARE STROKEGYM
 2) 北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
 3) Allied Health
 4) 株式会社SHARE
- P-01-14 **作業を介した世代間交流がもたらす地域づくりの可能性**
 堀江 勇夢^{1,2)}，佐藤 清果¹⁾，後呂 智成^{2,3)}
 1) 社会福祉法人 北見市社会福祉協議会 北見市北部地区地域包括支援センター
 2) SCOT(Social & Community Occupational Therapist's)
 3) 医療法人南労会 紀和病院
- P-01-15 **触覚過敏を有する自閉症スペクトラム症に対し手掌への脱感作を行うことで
 自食可能範囲が拡大した一例**
 齋藤 杏佳¹⁾，鳥越 夕妃¹⁾，大坪 光保¹⁾，田村 弥生子¹⁾
 1) 社会福祉法人麦の子会 むぎのこ発達クリニック

- P-02-01 **本校の通所または訪問リハビリテーション臨床実習に関する学生へのアンケート調査**
鈴木 渉¹⁾, 川上 和敏¹⁾
1) 北都保健福祉専門学校 作業療法学科
- P-02-02 **腱板断裂術後患者のアドヒアランス向上を目的とした介入の取り組み**
古田 尚也¹⁾, 角井 俊幸¹⁾, 石井 美沙紀¹⁾, 村田 絵吏²⁾, 矢田 翔馬³⁾, 進藤 正明¹⁾, 三好 直樹²⁾
1) 整形外科進藤病院
2) 旭川医科大学病院
3) 篠路整形外科
- P-02-03 **複数回の自宅環境下での訓練がSelf-awareness (自身の障害への気づき)に変化をもたらし、生活目標が明確化した一例
—日本語版SRSIを用いた分析—**
広瀬 大紀¹⁾, 荒井 英俊²⁾
1) ホームケアクリニック麻生
2) 医療法人ひまわり会 札幌病院 リハビリテーション部
- P-02-04 **自殺未遂後、作業活動を通じて休養の質も高まり、今後の生活に向きあえた事例**
江端 健治¹⁾, 山田 孝^{2,3)}
1) 愛全病院 リハビリテーション部
2) 一般社団法人 日本人間作業モデル研究所
3) 東京都立大学名誉教授
- P-02-05 **肩関節前方挙上と前方リーチの肩峰骨頭間距離の比較
～被験者1名による検討～**
矢田 翔馬¹⁾, 林 弘樹¹⁾, 金子 翔拓²⁾
1) 医療法人社団 篠路整形外科 リハビリテーション科
2) 北海道文教大学大学院 リハビリテーション科学研究科
- P-02-06 **役割再獲得を目指したMTDLPを利用した多職種による包括的支援の一例**
高橋 鈴¹⁾, 角田 大騎¹⁾, 木下 和海²⁾
1) 札幌リハビリテーション専門学校 作業療法士科
2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
- P-02-07 **リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算における専従作業療法士としての一経験**
長南 雄也¹⁾
1) 医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院
- P-02-08 **MP関節/PIP関節/DIP関節屈曲下でのA1 pulley stretchにより弾発現象が改善したばね指の一症例**
林 弘樹^{1,2)}, 矢田 翔馬¹⁾, 金子 翔拓³⁾
1) 篠路整形外科 リハビリテーション科
2) 札幌医科大学 大学院 保健医療学研究科
3) 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

- P-02-09 **折り紙（作業活動）を行い，上肢機能に変化が得られ，生活行為での上肢参加が積極的になった一症例**
苗代幅 貴史¹⁾，名和 優作¹⁾，高久 はるな¹⁾，榎本 雅一¹⁾
1) 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 作業療法科
- P-02-10 **視覚性注意障害を呈した症例に対し家族を含めた生活状況のモニタリングを行い生活範囲が拡大した作業療法経験**
竹内 利貴¹⁾，鴻上 雄一¹⁾，太田 久晶²⁾
1) 札幌柏葉会病院 リハビリテーション科
2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
- P-02-11 **食事の介助量が軽減した一症例～起居動作の介入を通して～**
中川 夢人¹⁾
1) 釧路孝仁会リハビリテーション病院 作業療法科
- P-02-12 **人工股関節全置換術後失語症の患者に対する脱臼予防指導**
田中 団¹⁾，伊東 修一¹⁾，八木橋 史佳¹⁾，呂 隆徳¹⁾，大田 哲生²⁾
1) 旭川医科大学病院リハビリテーション部
2) 旭川医科大学病院リハビリテーション科
- P-02-13 **がん患者の作業との結び付きに焦点を当てた実践
－作業との結び付きに関する評価尺度（AOE）を用いて－**
齋藤 駿太^{1,2)}，山中 佑香¹⁾
1) 済生会小樽病院 リハビリテーション室 作業療法課
2) 吉備国際大学保健福祉研究所 準研究員
- P-02-14 **座位への恐怖心・不安が強い患者に対し，段階付けた目標設定によりトイレの介助量が減少した事例**
森澤 和真¹⁾
1) IMSグループ 医療法人社団 明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院
- P-02-15 **急性期病院で本人が価値を置く作業中心の介入をした結果
”何でもできる自分”を取り戻した事例**
高橋 瑞季¹⁾，三原 考太¹⁾
1) イムス札幌消化器中央総合病院 リハビリテーション科
- P-02-16 **多彩な高次脳機能障害を呈した右片麻痺患者に対するCBAを用いた関わりが麻痺側上肢の自主訓練の定着に繋がった一例**
川村 遥¹⁾，三澤 志帆¹⁾，工藤 哲史¹⁾，山本 大稀^{1,2)}
1) 社会医療法人柏葉会 札幌柏葉会病院 リハビリテーション科
2) 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学第一講座 訪問研究員

S I G
(Special Interest Group)

症例検討会

会 長 越後 歩（札幌徳洲会病院整形外科外傷センター）
副会長 白戸 力弥（北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科）
事務局 札幌徳洲会病院整形外科外傷センター
〒004-0041 札幌市厚別区大谷地東1丁目1-1

【本研究会の紹介】

北海道ハンドセラピィ研究会は札幌およびその近郊で手外科領域のリハビリテーション（ハンドセラピィ）に興味を持つ作業療法士によって2003年に発足しました。発足から20年以上の歴史を持ち、いままでに第175回の定例の症例検討会を行い（2025年3月28日時点）、道内のハンドセラピィの普及、活性化に貢献してきました。

本研究会の主な活動内容は「症例検討会」、および「セミナーの開催」です。定例の症例検討会は月に1回、第2週の水曜日の19時から21時に札幌徳洲会病院で開催しております。近年は、函館や帯広、旭川などの遠方からもwebを利用し、毎回20~30名の作業療法士が参加しております。また年に1度、道内の手外科医とコラボレートして久光製薬株式会社の協賛のもとに「北海道手外科・ハンドセラピィ研究会」を開催し、毎年100名程度の医師と作業療法士が参加しています。

【本SIGのワークショップの紹介】

第55回北海道作業療法学会学術大会のSIGのワークショップでは、定例の症例検討会の形式で症例を提示していただき、参加者の皆さんとの討論する企画を予定しています。多くの皆様に本SIGのワークショップへご参加頂き、明日からの臨床に役立つ機会にさせていただきたいと考えています。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

定例の症例検討会へご参加希望の方は下記までご連絡ください。
連絡先：hokkaidohandtherapy@gmail.com

終末期がんクライアントにおける作業に根ざした 作業療法評価と、アプローチ方法

代 長 石井 陽史 (市立札幌病院)
副代表 伊藤 耕栄 (釧路孝仁会記念病院)
事務局 山本 英貴 (日鋼記念病院)
発表者 齋藤 駿太 (済生会小樽病院)

【企画趣旨】

終末期がんのクライアントにとって、日々の生活の中で自分らしさを維持し、生きる意味を見出すことは非常に重要です。今回は、済生会小樽病院 齋藤 駿太先生を招いてクライアントが人生の最期を自分の価値観や目標に沿って過ごせるように支援するための作業療法評価及びアプローチを共有します。

【発表内容】

作業療法の専門性は、作業を通じてクライアントの健康と幸福を改善させることである。一方で作業療法における終末期がんクライアントとの関わりにおいて、身体機能、ADLの低下をおこす方々への支援に難渋するといった声を耳にすることも依然として多い。そのため、作業療法の専門性を発揮できずに、悩む作業療法士も少なくないと思われる。このような状況は、多職種連携における作業療法の専門性の低下や、セラピストの燃え尽き症候群（バーンアウト）にも繋がる恐れがあるだろう。

そこで、本講演では、終末期がんクライアントに焦点を当てつつ、作業療法士の専門性をより発揮するための作業に根ざした実践（Occupational based practice；OBP）と、それらに関連する評価尺度について紹介していきたい。なお、本講演におけるOBPとは、クライアントが日常生活で行う意味のある作業に参加することを指す。

本講演の具体的な内容としては、①当院でのOBPの実践報告、②当院の作業療法士におけるアドバンスケアプランニング（ACP）の取り組み、③がんクライアントに使用できるQOL評価および、作業に根ざした評価方法の紹介、④筆者が開発した【作業との結び付きに関する評価尺度（Assessment of Occupational Engagement；AOE）】の紹介をさせていただき、皆様と作業療法士が終末期がんクライアントに対して、より作業療法の専門性を発揮できるようにするための実践について討論していきたい。

【経歴 資格】

2023年 吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科 作業療法学専攻 卒業 作業療法学修士取得
2024年 吉備国際大学保健福祉研究所 準研究員

症例が抱える生活行為の課題と介入のご紹介 ～課題分析に合わせた評価と治療、実技提示を交えて～

演者名：苗代幅 貴史¹⁾ 三村 浩司¹⁾ 澤本 望¹⁾
所 属：1) 釧路孝仁会リハビリテーション病院内
北海道活動分析研究会 事務局

【本研究会の紹介】

北海道活動分析研究会では、コロナ禍の影響で活動を控えておりましたが、昨年より対面式講習会を再開いたしました。

当研究会では、片麻痺患者の運動と知覚を探求しながら実用的機能の追求を中心に検討しており、具体的なADLや生活行為全般における知識・技術をお伝えすることを目的にしています。

明日からの臨床で実践できる知識・技術をお伝えし、受講生とともに一緒に考えていく活動を行っています。

【SIGの内容】

症例が生活行為の中で抱えている課題について検討していきます。生活行為の課題分析を行い、評価と治療介入について、動画を交えながらご紹介します。

症例紹介では、症例のニーズに合わせて「箸操作」と「書字動作」を取り上げる予定です。課題分析を行いながら、実技提示をし、参加者と一緒に練習をしていきます。

明日からの臨床で実践できる内容となり、充実した1時間になると思います。

多くの作業療法士に本SIGへご参加頂き、一緒に学びを進めていきましょう。

当日は、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【プログラム】

14:10～総論

14:20～症例紹介「箸操作」

14:30～症例紹介「書字動作」

14:40～実技練習【30分】

* 「箸操作」と「書字動作」の実技練習は同時進行で行います。

* 参加者は、興味のある実技提示へ移動し、演者やサポートスタッフと一緒に実技練習を行います。

～15:10終了

北海道で働く作業療法士の未来を考える

第55回北海道作業療法学会実行委員

齊藤 秀和、太田 久晶

日本における作業療法士数は年々増加しており、作業療法士の有資格者は11万8,471名（一般社団法人日本作業療法士協会『日本作業療法士協会誌 第150号』）であり、そのうち日本作業療法士会員は63,083名（2024年12月現在）と報告されています。また北海道作業療法士会員は、3250名であり、全国的にも高い組織率となっています。多くの道士会員が全道で活躍されている一方で、北海道は広大であり、依然として作業療法士によるサービスが十分に提供できていない場面も存在しています。また他の医療従事者に比べ、作業療法士の地域偏在による作業療法サービス提供状況を検討する必要性を指摘する研究も見られており（森井ら、2017）、更なる作業療法士有資格者の増加、各分野・地域における作業療法士の活躍が期待されています。そのために必要なのが、新卒者や若手の活躍であり、そのための環境づくりが重要であると考えられます。

そこで今回、「北海道内で作業療法士として新卒者や若手で働く場合、何が必要か?」、「知識・技術に加えて、どのような支援が求められているのか?」について、学生参加者と北海道作業療法士会員が共に考える機会として、本企画を立案いたしました。道士会会員が新卒時、上記テーマに関して感じた・経験した内容を学生参加者と共有・発表し、“北海道で作業療法士として働くこと”に関する理解を深めることを目的としております。これにより、地域特性や地域で働くことに対する理解を深め、学生の将来的なキャリア形成に加え、各作業療法士が北海道の医療にどのような貢献ができるかを考える機会としたいと考えております。

上記に加えて、来年度以降の入会が期待される北海道内の作業療法士養成校に所属する学生が、“北海道で作業療法士として働くこと”について、理解を深めることを目的としております。これを契機として、北海道作業療法士会員から学生へ、北海道内で作業療法士として働くことの意義を伝え、交流を深めることで、作業療法の将来を担う人材育成の一助としたいと考えております。

災害時リハビリテーション 避難所宿泊演習を経験して

北海道災害リハビリテーション推進協議会・北海道作業療法士会災害対策委員会
吉岡英章、石井陽史、木賊弘明、小林里美、古郡 恵

1. ワークショップ名：

「災害時リハビリテーション 避難所宿泊演習を経験して」

2. 講師：伊藤耕栄先生（釧路孝仁会記念病院）

谷内綾香先生（紋別市包括支援センター）

3. 内容：

防災基本計画は、災害対策基本法によって、中央防災会議が作成する、政府の防災対策の基本的な計画です。2024年6月28日、内閣府は「防災基本計画」を修正し、医療活動の「被災地域からの災害派遣医療チーム（DMAT）等の派遣」の項に、「日本災害リハビリテーション支援協会（以下、JRAT）」が明記されました。今回、防災基本計画にJRATが明記されたことにより、要請に応じて災害支援活動に従事することが日本作業療法士協会としても求められます。

道内における、災害リハビリテーションの啓蒙と推進をすすめておりますが、その取り組みの一つとして、北海道では毎年3カ所で行われている防災総合訓練への参加があります。防災総合訓練では、北海道災害リハビリテーション推進協議会は、災害リハビリテーションの啓蒙、被災地でのリハ職種による活動の紹介、朝の避難所体操を行っております。訓練には宿泊訓練があり、災害時には避難所となる会場（体育館等）で、実際に停電・断水を想定し、発電機による暖房・電灯、ラップポン（災害用トイレ）の使用、段ボールベッドでの宿泊、炊き出しでの食事、朝の避難所体操が行われます。

今回、防災総合訓練に参加した作業療法士が、避難所を宿泊し、その防災訓練での経験をお伝えいたします。避難者はどのような生活を送るのか、避難所での生活が地域でみている担当の方・住民の方にどのような影響があるのかを皆様と一緒に考えたいと思います。合わせて、避難所生活が体に与える影響や生活不活発病、肺血栓塞栓症への対応を考え、平時より、担当している担当の方にどのような備えができるのかを考える時間にしたいと思います。

また、避難所で使用される段ボールベッドを会場でみなさんと組み立てを行い、実際に横になる体験をしたいと思います。段ボールベッドの利点・注意点、実際の寝心地なども確認し、避難所で想定される対応について学んでいきたいと思います。

“あなた”の知らない作業療法の力を知ろう！

朝倉真未¹⁾ 荒井英俊²⁾ 荻野圭司²⁾ 高橋健介²⁾
丹野拓史²⁾ 平田みゆき³⁾ 若井 亜矢子⁴⁾

1) イムス札幌内科リハビリテーション病院 2) 札幌病院

3) 朝里中央病院 4) 札幌リハビリテーション専門学校

私たち作業療法士は、クライアントの望む作業の可能化に向けて、「クライアント自身であるようになること」を支援する医療専門職です。その実現に向けて、クライアントと協働できるよう、情報の提供や共有を通じた作戦会議と、それに基づいた実践を日々行っているでしょう。しかし、その情報は“あなた”や“クライアント”が知っている範囲の内容であったり、病院や施設がこれまで提供したことのある範囲の内容にと、いつしか偏ってしまうかもしれません。そうならないためには、「こんな考え方があったのか」「素敵な取り組みだな」「他の人から作業療法はこんな面で期待されているのか」など“あなた”の知らない作業療法の力を知ることが大切でしょう。

そこでこのSIGでは、今秋に当会での講演会の講師を務めていただく予定である『石橋裕先生』が書かれた書籍『作業療法士のトリセツ』（クリエイツかもがわ、2024）を活用し、カードゲームを交えながら作業療法の持つ力を再発見したいと考えています。この本には、作業療法士は「ダイバーシティー&インクルージョン（D&I）時代に活躍するだろう」「ライフスタイルのファンタジスタである作業療法士の可能性は無限大で、未来が明るい」とあり“あなた”の知らない作業療法の力を知るにはうってつけだと思います。

この時間で、私たちは目の前のクライアントや社会の多様性と包摂性を理解し、1人1人の「したい（生活を）叶える」作業療法士だと説明できることを目指します。このSIGに参加することで、より作業の専門家としての作業療法の力・可能性の輪郭がはっきりと見え、クライアントや他職種と同僚に話したくなるでしょう。明日からの実践が変化すること間違いなし！ぜひ、この機会にご参加ください。

MTDLPを臨床で日常使いしてみよう！

MTDLP推進委員 荒井 英俊, 浅野 祐平, 阿部 純平, 小島 佳祐
酒谷 啓介, 土橋 大基, 宮田 友樹, 森田 和幸

生活行為向上マネジメント (MTDLP) とは、作業療法のプロセスを明確に示し、クライアントの作業の可能化に向けて他職種と協働して取り組む際の道具の一つです。そしてこの道具は作業療法を「見える化」することで振り返りや啓蒙にも役立ちます。

しかし、作業療法の臨床の現場や実習・職員指導などで日常的に使用することは少ないように思われます。その理由には、記載するシートが多い、職場で活用しているスタッフが少ない、使用の経験が乏しく指導に自信がない、他の理論や手技との併用ができるかわからないなど、様々な要因が考えられます。

そこで、今回は作業療法の臨床の現場や実習・職員指導での日常的な活用に向けて、どのような考えや取り組みを行うことが促進につながる可能性があるのか、話をさせていただきます。組織にどのように定着を図っていくのか、部分使用の具体的な方法にはどのような取り組みがあるのか、実習生の指導はどのような方法があるのかなど、できる限り現場目線での具体的な話をさせていただきます。また、後半には、MTDLP指導者を配した小グループに分け、相談会の時間も設ける予定です。MTDLPに興味のある方が集まり、悩みや考えを共有することのできる機会にもなります。ぜひ、この機会にご参加のほどよろしく申し上げます。

視機能の理解を深める

企画

藤坂 広幸 | 作業療法士 | 北海道立子ども総合医療・療育センター

池田 陽介 | 視能訓練士 | 北海道立子ども総合医療・療育センター

演者（一般社団法人北海道視能訓練士会員）

倉部 明佳 | 視能訓練士 | ひきち眼科

中村 潤基 | 視能訓練士 | 市立室蘭総合病院

石橋 裕香 | 視能訓練士 | 北海道大学病院

ヒトは外部環境を認識する際、その80%以上を視覚に依存しているといわれています。身体的・精神的な活動において視覚認知の役割を考えると、基本的な視機能の理解は欠かせません。そこで今回は、日常生活動作と深く関わる視機能のうち、「視力」「視野」「眼球運動」に焦点を当て、それぞれについて解説します。具体例を交えながら、視機能の評価や障害への対応についても触れていきます。

視力

視力は、最もよく知られた視機能の一つです。眼球から視中枢に至る視路のどこかに障害が生じると、視力が低下します。また、眼は光を受容する器官であるため、その特性を理解するには生理光学の視点も必要です。光の屈折状態の違いによって、近視・遠視・正視・乱視に分類されます。適切な眼鏡やコンタクトレンズを装用することで、見たい距離に合わせた快適な視環境を整えることが可能です。

視野

視野とは、目を動かさずに見える範囲を指します。視野内の感度は一様ではなく、中心部が最も高く、周辺に向かうほど低くなります。これは網膜細胞の分布によるものです。本稿では、視野の基本的な仕組み（視覚生理）に加え、視野の評価方法についても解説します。

眼球運動

眼球の動きによって、視対象をすばやく捉えたり、移動する物体を視線で追いつけたりすることができます。眼球運動に障害が生じると、複視（ものが二重に見える）が発生し、生活の質が著しく低下する可能性があります。眼球運動の評価では、単眼の可動域と両眼の協調性を確認することが重要です。本稿では、より正確に眼球運動を評価するための検査方法や、眼球運動障害による複視への対処法について解説します。

医療機関の運転支援（評価）の概要と事例報告

北海道作業療法士会 地域部 運転と地域移動支援推進課
小林 利行（札幌溪仁会リハビリテーション病院）

【内容】

1. 神経心理学的検査の評価を行なった事例
（旭川リハビリテーション病院 柳田草太）
2. ドライブシミュレーターの評価を行なった事例
（十勝リハビリテーションセンター 木下和海）
3. 実車評価を行なった事例
（溪和会江別病院 松下祐也）

2024年4月より、北海道作業療法士会地域部運転と地域移動支援推進課が発足しました。活動目的は、会員が自動車運転や地域移動の支援を円滑に進めるための情報共有や研修会の実施、および地域住民の移動手段の支援に向けた派遣事業や調査研究を行っています。

今回は、医療機関における自動車運転支援について、3施設の取り組みについて紹介します。

精神科作業療法と臨床推論

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
森元 隆文
社会医療法人こぶし ウトナイ病院
白鳥 慶司
製鉄記念室蘭病院 介護老人保健施設 憩
上村 苑子
札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科
横山 和樹

【内容】

臨床推論（クリニカル・リーズニング）とは、対象者の訴えや症状から状態像を推測し、仮説に基づいて適切な評価法・介入法を決定していく一連の思考過程を指す。作業療法における臨床推論は、対象者の作業機能障害に対応するために複数の事実から何らかの判断を導く思考様式（京極、2022）であり、その枠組みを明確に言語化できるようになることが作業療法の実践能力の向上につながる。

また、臨床推論とは情報に「解釈」を加えるプロセスであり、対象者の症状や語り、背景を丁寧に考察し、その源を明らかにすることを指す（早坂、2024）。熟練した精神科の作業療法士は、情報の列挙に留まらず多くの情報から重要なポイントを抽出し、情報の関連性を瞬時に紐解き、治療計画を立案できる。一方で、精神科領域の対象者の多くが抱える作業機能障害の背景には目に見えない内的体験や過去の経験が存在することから、熟練した作業療法士でも臨床推論に難渋するケースがある。臨床推論の能力を高めるためには丁寧な臨床実践とカンファレンス・報告会での言語化・省察を積み重ねる必要があるが、その際に臨床推論のプロセスや考え方を整理しておくことが役立つ。

以上を踏まえ、本ワークショップでは臨床推論についての基本的な知識を共有したうえで事例を通じた臨床推論の実際を報告する。さらに、精神科作業療法における臨床推論のポイントを紹介し、現場での臨床推論の能力を高める方略について話し合う機会をもつ。本ワークショップを通して、精神科領域の対象者と関わる作業療法士が臨床推論の能力を高めるために明日から使えるヒントを得る機会としたい。

【参考文献】

森元隆文、白鳥慶司、上村苑子、横山和樹：各精神疾患の作業療法と臨床推論 統合失調症。臨床作業療法NOVA 21(4)：8-15、2024

第55回北海道作業療法学会学術大会 実行委員会

<大会長>

太田 久晶 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

<実行委員長>

齊藤 秀和 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

<総務部>

部長

横山 和樹 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

副部長

早崎 涼太 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

<財務部>

部長

中村 充雄 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

<演題抄録部>

部長

中村 裕二 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

<会場進行部>

部長

森元 隆文 (札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科)

協賛いただいた施設・団体

医療法人ひまわり会札幌病院

医療法人豊和会 新札幌豊和会病院

学校法人西野学園 札幌医学技術福祉歯科専門学校

学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校

合同会社たかぎ発達支援室

特定非営利活動法人さっぽろこどもさぽーと

函館市医師会看護・リハビリテーション学院

北海道千歳リハビリテーション大学

Body Control Studio株式会社

(順不同・敬称略)

心のぬくもりが 伝わる医療を。



社会医療法人 医仁会
 中村記念病院

脳神経外科 脳神経内科 内科 糖尿病・代謝内科 循環器内科
消化器内科 小児神経内科 外科 心臓血管外科 消化器外科
整形外科 耳鼻いんこう科 眼科 麻酔科 放射線科
リハビリテーション科 病理診断科

理事長・院長
中村博彦

札幌市中央区南1条西14丁目
TEL(011)231-8555 FAX(011)231-8385

社会医療法人 医仁会
 中村記念南病院

脳神経外科 脳神経内科 リハビリテーション科 循環器内科

理事長 中村博彦
院長 岡亨治

札幌市南区川沿2条2丁目
TEL(011)573-8555 FAX(011)573-8385

運営施設：中村記念病院附属看護学校・訪問看護ステーションなかむら
中村記念病院居宅介護支援事業所
関連施設：公益財団法人 北海道脳神経疾患研究所



「ずーっと。」

人と社会を支える

溪仁会グループは「医療」「福祉」「在宅支援」のさまざまな角度から
総合的なリハビリテーション・サービスを提供しています。

医療法人 溪仁会

手稲溪仁会病院

札幌市手稲区前田 1 条 12 丁目 1-40 Tel.011-681-8111

救急・集中治療病棟の超急性期から 365 日のリハビリテーションを提供します。
早期離床、早期 ADL 実施を進め、生活機能向上へ向けた作業療法プログラムを実践しています。

札幌溪仁会リハビリテーション病院

札幌市中央区北 10 条西 17 丁目 36-13 Tel.011-640-7012

ロボティクスリハビリテーションや、FES 機器など各種デバイスを使用し、専門的なリハと良質なケアを提供するとともに、患者さんの運動機能や生活機能の回復を図り、社会復帰や社会参加を支援します。また、各種地域支援活動も行っております。

札幌西円山病院

札幌市中央区円山西町 4 丁目 7-25 Tel.011-642-4121

回復期リハビリテーション病棟、神経内科病棟で 365 日リハビリを実施するとともに、終末期までの全てのステージにおいてリハビリを提供します。認知症やフレイルを中心とした地域活動にも積極的に挑戦します。

定山溪病院

札幌市南区定山溪温泉西 3 丁目 71 Tel.011-598-3323

屋上に足湯のある病院です。地域包括ケア病棟、障害者病棟、医療療養病棟があり、積極的な在宅支援に努めています。溪仁会真駒内在宅クリニックでは、訪問リハビリテーションも実施しています。

社会福祉法人 溪仁会

入所者は在宅復帰を、在宅療養者は安定した在宅生活の継続を目指したリハビリテーションを、多職種協働の下、職員一丸となって提供します。地域での介護予防事業などにも力を注いでいます。

介護老人保健施設

コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通 3 丁目南 1-35 Tel.011-864-5321

介護老人保健施設

コミュニティホーム美唄

美唄市東 5 条南 7 丁目 5-1 Tel.0126-66-2001

介護老人保健施設

コミュニティホーム八雲

二海郡八雲町栄町 13-1 Tel.0137-65-2000

介護老人保健施設

コミュニティホーム岩内

岩内郡岩内町字野東 69-26 Tel.0135-62-3800

支える気持ち、育てよう。



函館市医師会 看護・リハビリテーション学院

学院の教育方針と特色

地域医療



POINT

地域医療の課題と向き合い、地元のために貢献できる理学療法士・作業療法士を育成します

ICT教育



POINT

医療ICTの教育を取り入れ、医療情報科学の知識を持つ次世代のセラピストを育成します

研究機関



POINT

当学院の生体医工学研究センターは文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関となっています

湯の川キャンパス 3年制

看護学科

〒042-0932 函館市湯川町3丁目38番45号
■TEL 0138-36-0080 ■FAX 0138-36-0081

五稜郭キャンパス 3年制

理学療法学科・作業療法学科

〒040-0081 函館市田家町5番16号
■TEL 0138-43-8282 ■FAX 0138-43-8283

学院HP





社会医療法人 孝仁会 理事長 齋藤孝次

地域を支える医療とつながる介護

私たち、孝仁会グループはすべての患者様が健康で安心して生活できるサービスを提供します。



・釧路孝仁会記念病院

〒085-0062 釧路市愛国191番212
TEL : 0154-39-1222



・札幌孝仁会記念病院

〒063-0052 札幌市西区宮の沢2条1丁目16番1号
TEL : 011-665-0020



・釧路孝仁会リハビリテーション病院

〒084-0912 釧路市星が浦大通り3丁目9番13号
TEL : 0154-54-2500



・札幌第一病院

〒063-0804 札幌市西区二十四軒4条3丁目4番26号
TEL : 011-611-6201

リハビリテーション関連施設

老人保健施設星が浦 留萌セントラルクリニック 釧路脳神経外科デイケアセンター
ケアスタジオ住吉 中標津訪問リハビリセンター 釧路訪問リハビリセンター
星が浦訪問リハビリセンター 知床らうす国民健康保険診療所（通所リハ）

スタッフ募集中

地域と、仲間とともに成長しよう

リハビリテーション統括部長 作業療法士 山田勝雄

法人本部 人事部 〒085-0062 釧路市愛国191番地5718号

リハ担当：仲村 / TEL 0154-65-1275 / Mail jinji@kojinkai.or.jp

革新に満ちた医療への挑戦と新たなる組織価値の創造

地域を支える力になりたい。



作業療法士

私たちは北斗グループです



北斗病院



十勝リハビリテーションセンター

- | | | | |
|-------------------------|-------|--------------------------|--------|
| 北斗病院 | （帯広市） | 認知症対応型共同生活介護グループホーム あおぞら | （帯広市） |
| 北斗クリニック | （帯広市） | 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ | （上士幌町） |
| 十勝リハビリテーションセンター | （帯広市） | 介護付有料老人ホーム ノーステラス 緑ヶ丘 | （帯広市） |
| サービス付き高齢者向け住宅 あやとり | （帯広市） | 介護付有料老人ホーム ノーステラス 札内西町 | （幕別町） |
| 十勝自立支援センター介護老人保健施設 かけはし | （帯広市） | 介護付有料老人ホーム ノーステラス 環状東 | （札幌市） |
| ほくと自立支援ホーム/カンタキあおぞら | （帯広市） | | |



社会医療法人
Social medical corporation

北斗

帯広市稲田町基線7番地5 ☎0155-48-8000(代)



<文部科学大臣認定「職業実践専門課程」認定校／世界作業療法士連盟(WFOT)認定校>

札幌リハビリテーション専門学校



作業療法士科 4年制課程／40名

【併設学科】理学療法士科 4年制課程／40名

「高度専門士」取得可能! 卒業時に大学卒「学士」と同等と認められる

「高度専門士」の称号が得られます。



アクセス

- ・地下鉄「西18丁目」駅
1番または3番出口より徒歩12分
- ・JR「桑園」駅より徒歩18分



<文部科学大臣認定「職業実践専門課程」認定校>

札幌医学技術福祉歯科専門学校



作業療法士科 3年制課程／40名

理学療法士科 3年制課程／40名

言語聴覚士科 3年制課程／40名

【併設学科】臨床検査技師科 | 臨床工学技士科

歯科衛生士科



アクセス

- ・地下鉄「西11丁目」
2番出口より徒歩7分





セラピストとして 人として 成長できる場所

知識・技術はもちろん、豊かな人間力を磨くことを大切に。
それが、私たちの目指すセラピストの第一歩です。

理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科

4年制 定員60名
卒業時「高度専門士」称号付与



4年制 定員40名
卒業時「高度専門士」称号付与



3年制 定員40名
卒業時「専門士」称号付与



厚生労働大臣指定

所在地／札幌市中央区南3条西1丁目

お問い合わせ／学校法人 吉田学園 入学相談室

専門学校北海道リハビリテーション大学校

☎ 0120-607033
<https://yoshida-rehabili.jp>

プラスにできる
人になる。

これからの日本で求められる
「障がい予防リハビリテーション」を学び
医療現場だけでなく地域社会にも貢献できる
理学療法士・作業療法士を育成します



未来を拓く医療人をめざして
北海道千歳リハビリテーション大学
Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

健康科学部リハビリテーション学科
理学療法専攻 作業療法専攻
〒066-0055 千歳市里美2丁目10番
TEL 0123-28-5331





医療法人 雄心会

函館新都市病院

良質かつ適切な医療を最良の環境で提供出来る病院をめざして

脳神経外科 脳神経内科 整形外科 循環器内科 内科 消化器内科 皮膚科
小児科 リハビリテーション科 麻酔科(小林康夫) 放射線科 歯科



TEL.0138-46-1321(代) 〒041-0802 北海道函館市石川町 331 番地 1
<http://yushinkai.jp/hakodate/>

外来受付時間	
月	午前 8:45 ~ 11:30
金	午後 13:30 ~ 16:30
土	午前 8:45 ~ 11:30
予約変更受付	
平日	午後 13:00 ~ 17:00
土	午前 9:00 ~ 12:00



医療法人 雄心会

法人本部

北海道函館市石川町 331-1
TEL.(0138)34-7655 FAX.(0138)34-7665

新都市砂原病院

北海道茅渚郡森町字砂原 1 丁目 30-59
TEL.(0137)49-3131 FAX.(0137)49-3134

江差脳神経外科クリニック

北海道檜山郡江差町字伏木戸 550-1
TEL.(0139)52-5500 FAX.(0139)52-5566

函館おおてまクリニック

北海道函館市大手町 1-21
TEL.(0138)23-1062 FAX.(0138)23-3382

青森新都市病院

青森県青森市大字石江字高間 109-18
TEL.(017)757-8750 FAX.(017)788-9901

上ノ国阿立石崎診療所

北海道檜山郡上ノ国町字石崎 243-1
TEL.(0139)59-2341 FAX.(0139)59-2345

有限会社 ふくもり

快適な姿勢づくり

生活環境づくりを目指す

補装具

- ・車椅子
- ・電動車椅子
- ・座位保持装置
- ・カーシート
- ・プロンボード
- ・臥位・伏臥位装置
- ・シーティングに特化した製品の提案
(重度の障がいがある方)

日常生活用具

- ・ベッド
- ・ベッドマット入浴時の椅子
- ・オーダー便座
- ・スロープ
- ・保護帽
- ・住宅改修など

〒002-0858 札幌市北区屯田8条8丁目14番18号 モテュロール屯田88 5号棟

TEL 011-773-0996

FAX 011-776-6883

受付時間 9:00~17:00 [土日月・祝日除く]



お気軽にお問合せください。

QRコードから各種SNSのフォローもお待ちしております。



FUKUMORI

医療と福祉の総合大学 ～医療と福祉の未来へともに～

月寒本キャンパス

〒062-0053

札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号

TEL 011-351-6100

<https://www.jhu.ac.jp>



■ 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻/作業療法学専攻
【併設学科】 看護学科 診療放射線学科 臨床検査学科 臨床工学科



医療と福祉の現場から誕生した
日本医療大学

詳細は大学 HP から



医療法人 脳神経研究センター 新さっぽろ脳神経外科病院 Shin-Sapporo Neurosurgical Hospital

病床数 135床（高度急性期25床・急性期55床・回復期55床）

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条6丁目2番10号

TEL (011) 891-2500

※ 地下鉄新さっぽろ駅 出口10番 直結
(エレベーターあり)



急性期から回復期、在宅まで一貫した
リハビリテーションを提供し、充実した
在宅生活も支援しています

作業療法士 募集中

急性期から在宅まで幅広く経験を積める環境です。
見学・お問い合わせはお気軽にどうぞ！

東苗穂病院は新たなステージへ

2025年6月、194床へ増床
8月、透析センターリニューアルオープン



社会医療法人 豊生会

東苗穂病院

☎(011)784-1121

札幌市東区東苗穂3条1丁目 2-18

平日 8:45~12:00/13:30~17:00

土曜 8:45~12:30 **夜間予約外来** (第1月曜日) 17:00~19:00

内科・総合診療科※・消化器内科・腎臓内科(人工透析)・循環器内科・呼吸器内科・神経内科・リハビリテーション科・心臓血管外科・老年脳神経外科・歯科・放射線科・アレルギー科(小児・成人)※ ※院内標榜

▶ 社会医療法人豊生会



▶ 豊生会採用情報



HOKUYAKU
TAKEYAMA
HOLDINGS

株式会社ほくやく・竹山ホールディングス



「医師、医療スタッフとともに
人々の生命と健康を守る」という
創業以来の使命感のもと
社会貢献度の高い仕事と
誇りを持ち、
日々努力を続けております。

生命と健康への貢献

血液浄化

低侵襲機器

内視鏡

整形外科

「専門領域に特化した支援・サポート」

眼科

脳神経外科

ニーズにお応えするため、それぞれの診療・治療に
特化した専門担当部門を設けています。

テクニカルサポート

循環器

循環器外科

画像診断機器



株式会社 竹山

代表取締役社長 土田 拓也

本社 / 〒060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5

☎011-611-0100(代表)

<https://www.takeyama.co.jp>

●ほくたけメディカルトレーニングセンター「ヴィレッジプラス」/札幌市中央区北11条西14丁目1番1号(ほくやくビル4F)・☎011-700-5833 <https://www.takeyama.co.jp/villageplus/>

充実した拠点網によるきめ細やかな営業体制

札幌圏 中央支店:☎011-859-8714 北支店:☎011-789-1020 新札幌支店:☎011-859-8717
北大支店:☎011-859-8712 札幌大支店:☎011-859-8713 西支店:☎011-668-2526
札幌東支店:☎011-859-8711 札幌南支店:☎011-676-6263 札幌北支店:☎011-859-8722

道央・道南圏 室蘭支店:☎0143-45-1221 苫小牧支店:☎0144-53-2101 小樽支店:☎0134-29-4524
岩見沢支店:☎0126-25-6992 函館支店:☎0138-83-5000

道東・道北圏 釧路支店:☎0154-25-2241 北見支店:☎0157-31-3224 帯広支店:☎0155-35-5800
旭川支店:☎0166-73-3011 旭川大支店:☎0166-73-3011 旭川南支店:☎0166-73-3011
空知支店:☎0125-74-6005 道北支店:☎01654-3-9955

首都圏 東京支店:☎03-3814-0103 横浜営業所:☎045-232-3310

社会医療法人 元生会
MORIYAMA HOSPITAL



森山病院

旭川市宮前2条1丁目1番6号 ☎ (0166) 45-2020



診療科のご案内

■内科 ■循環器内科 ■消化器内科 ■心療内科 ■外科 ■乳腺外科 ■血管外科 ■脳神経外科
■整形外科 ■形成外科 ■眼科 ■泌尿器科 ■耳鼻咽喉科 ■麻酔科 ■放射線科 ■リハビリテーション科



整形外科各分野のスペシャリストによる 一般外傷、スポーツ
障害、変性疾患など 幅広い診療に対応



医療 法人 札幌円山整形外科病院

理事長・院長 竹林 庸雄

札幌市中央区北7条西27丁目1番3号

TEL. 011-612-1133



ReoGo-J
上肢用ロボット型運動訓練装置
HONDAセーフィティビ
運転復帰支援 (ドライビングシミュレータ)

導入
して
います

社会医療法人 函館脳神経外科

函館脳神経外科病院

HAKODATE NEUROSURGICAL HOSPITAL

24H
救急対応

公式サイト <https://hnh.or.jp>

リクルートサイト <https://r.hnh.or.jp>

ケアウィルは、対象者、医療・介護職の皆さんと福祉製品を共創しています。 **carewill**

GOOD DESIGN AWARD 2024年度受賞

川崎市 川崎市公募型福祉製品等開発委託
市政100周年記念事業

すべての車いす利用者の皆様へ

車いす利用者用晴雨兼用ウェア

療士 監修

累計ご利用者 **340** 名突破

東京新聞

- 風でめくれない、蒸れない
上下分離式。空気が服の中に入らず、風でめくれず、蒸れません。
- 着る、脱ぐ、収納がラクラク
ファスナーがなく、ボタンは2個だけ。小さな動作で着脱、畳みが可能。
- 巻き込まれない
足にしっかりフィットする膝かけと適度な丈のジャケットは車輪に巻き込まれません。
- 膝かけの多様な固定方法
上肢の可動制限と、車いすの形状に応じて6つの固定方法から選択。

療士・看護師 監修

楽に着られるアームスリングウェア

モニター病院・施設を募集中!

累計ご利用者 **610** 名突破

- 一人で着脱ができる
片手で簡単に着れるデザイン。ボタンや留具もなく短時間で着脱。
- 首を痛めず、疲れない
伸縮する生地全体で腕を支え、内部のゴム素材で腕の自重を両肩へ分散。
- コーディネートしやすいデザイン
ネイビーとグレーの2色展開。外出着として装いを楽しんでいただけます。
- 肘をしっかり固定
シャツの肘部のループと中央ボタンを留めて肘を固定。腕がぐらつきません。

GOOD DESIGN AWARD 2022年度受賞

かわさき基準福祉製品2023

OMOTENASHI SELECTION 2022年度ANA賞

ご自宅や施設で、洗濯の自立支援に

自立する、丸ごと洗えるランドリーバッグ

療士 監修

累計ご利用者 **6400** 名突破

dinos 販売中!

- 丸ごと洗える脱衣かご
上下分離式。空気が服の中に入らず、風でめくれず、蒸れません。
- 洗濯ものが絡まない
芯材がバッグ内の空間を維持し、服の絡みや傷みを軽減。
- 洗濯の自立を支援
洗濯物の仕分けと移し替えが不要。独力による洗濯を支援します。
- プライバシーを守り、紛失防止
中が透けないので持ち歩きも安心。施設での衣類の紛失防止にも。

医療・介護職、医療・介護系法人経由のご購入なら..

全品 **35%OFF**

いまずく使える 15%OFF クーポンをプレゼント
以下のクーポンコードをご利用ください

ご利用サイト	クーポンコード
carewill ケアウィル直営	39157
amazon アマゾン直営	TOT39157

15%OFF

病院・施設からのご紹介で
無料サンプルいつでもお試しできます!

全国どこでも**3日以内**にお届け
お申し込みは**30秒**で完了
お申込はこちら→

株式会社ケアウィル 本社：東京都豊島区駒込4-2-24
<https://www.carewill.co.jp/>

ケアウィル 検索

◆◆◆外来・入院・訪問看護◆◆◆

地域に根差した安心で良質な
医療を包括的に提供します
～地域から信頼される病院を目指します～



訪問看護ステーション
えがお
☎011-88-2310

●診療時間 午前 9:00～12:00
午後 13:30～17:00

●病棟			
1病棟	精神科一般病棟		60床
※2病棟	精神科療養病棟		60床
3病棟	精神科一般病棟		60床
4病棟	精神科急性期治療病棟		42床
5病棟	精神科療養病棟		34床
6病棟	精神科一般病棟		60床

※令和7年6月下旬 認知症治療病棟 開設予定!



Ashinobetsu
Hospital

心療内科・精神科・神経科
医療法人社団 函南会
あしりべつ病院
〒004-0841 札幌市清田区清田1条4丁目4番35号
TEL (011) 881-2626 FAX (011) 882-4161

orfit



世界50カ国以上で使われている
スプリント製品の世界ブランドです。



k パシフィックサプライ株式会社

●札幌営業所 TEL.011-218-5801 FAX.011-218-5805
〒060-0051 札幌市中央区南1条東6-2-12 松浦ビル1F

●本社 TEL.072-875-8008 FAX.072-875-8010

●東京本社 TEL.03-5635-5015 FAX.03-5635-5016

<https://www.p-supply.co.jp/>

家庭や地域に看護の輪をお届けします

- ★全道に53の訪問看護ステーションと12のケアプラン相談センターを配置して
訪問看護と居宅介護支援サービスを提供しています
- ★約20名のOTが在籍しています
- ★ご利用のご相談はお近くの訪問看護ステーションまたはケアプラン相談センターへ



一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団

ホームページはこちら→<https://hggh.or.jp/>



〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目3番27号 TEL(代表) 011-281-2120



社会医療法人 北農会

恵み野病院

理事長 近藤 英輔
院長 三浦 洋輔

〒061-1395 恵庭市恵み野西2丁目3番地5

TEL 0123-36-7555

FAX 0123-33-7359

<https://www.megumino.or.jp>



【診療科目】

内科・循環器内科・糖尿病内科・消化器内科・小児科
外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・形成外科
心臓血管外科・耳鼻咽喉科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科

■血液透析センター

■糖尿病・生活習慣病センター

■内視鏡センター

■心血管治療センター

【受付時間】

平日 午前8:10～11:00 / 午後13:00～16:30

土曜日 午前8:10～11:00 (第1・第3)

※診療科により休診の場合がございます

休診日 日曜・祝日・第2土曜・第4土曜・第5土曜

事業拡大につき作業療法士募集

医療法人ひまわり会札幌病院 多機能型事業所ひまわり

コパンの杜

児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援
小樽市銭函3丁目297番地

コパンの杜北22

児童発達支援・放課後等デイサービス
札幌市北区北22条西3丁目2番2号 インペリアル22

コパンの杜手稲前田

児童発達支援・放課後等デイサービス
札幌市手稲区前田5条12丁目12番30号 前田ノルテビル1階

問い合わせ先 コパンの杜 荻野
Tel : 0134-62-5090
Mail: copannomori@sasson-hospital.jp



詳細はHPを
ご覧ください⇒



医療法人 豊和会
新札幌豊和会病院
affiliate with EUCALIA

住所 北海道札幌市厚別区大谷地東2丁目5-12

電話 011-893-7000 (代表)

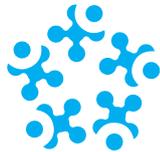
診療時間 平日 9:00~12:00 13:30~17:00

土曜 午前のみ 休診 日曜・祝日

診療科 内科・外科・消化器内科・消化器外科・

肛門内科・肛門外科・循環器内科・

人工透析外科・リハビリテーション科



メディカル。つながる。街つくる。

博愛会

メディカルグループ

開西病院

介護老人保健施設

あかや

介護老人保健施設

ザラかいせい



社会医療法人 **博愛会**

理事長 細川 吉博

帯広市西23条南2丁目16番地27
TEL 0155-38-7200(代)



LUNA CAST

ルナキャスト

熱可塑性ギプス包帯

硬化後も再成形できる！
手軽で便利な現場の味方



イワツキ株式会社

真心と豊かな技術で信頼される医療・介護を提供いたします

診療科目 内科・循環器内科・外科・リハビリテーション科
病床数 一般病床（74床）・医療療養病床（136床）



医療法人(財団)五紀会

室蘭太平洋病院

理事長・院長／印 宮 朗

〒050-0054 室蘭市白鳥台5丁目19番2号
TEL(0143)59-2211(代) FAX(0143)59-3991

在宅支援
施設

通所リハビリテーション「コラソン」
TEL(0143)59-2211 FAX(0143)59-3991

太平洋居宅介護支援事業所
TEL(0143)59-6561 FAX(0143)59-5299

併設
施設

ケアハウス白鳥の丘
室蘭市白鳥台5丁目18番5号
TEL(0143)59-2100 FAX(0143)59-2101

グループホーム白鳥台
室蘭市白鳥台5丁目20番10号
TEL(0143)59-1165 FAX(0143)59-1200



医療法人社団 鈴木内科医院

札幌市清田区清田4条2丁目10-25
☎011-882-2233

Love & Care

愛のある医療・介護、愛のある運営を通じて
地域社会・職員の幸せづくりに貢献します

【リハビリセンター】

札幌市清田区清田4条2丁目10-25
☎011-882-5608

リハビリセンターの
活動はこちら

皆様が住み慣れた地域で安心して生活できるよう
ご要望、お体の状態に合わせてリハビリプログラムを
立案して生活期リハビリテーションを提供しています



【訪問リハビリテーション】

札幌市清田区清田4条2丁目10-25
☎011-882-5608

PT・OT・STが揃っており
万全な体制でリハビリを提供しています

訪問リハビリの
活動はこちら

【おおまがり鈴木内科

訪問リハビリテーション】

北広島市大曲柏葉1丁目1-21
☎011-398-5331

「人生」「生きがい」を支えます



鈴木内科医院では、作業療法士が活躍しております！

～防災・減災対策進んでいますか～



停電時でも
あなたの周りを
明るく照らす

いつでもランプ
tsuita

注意：E26口径になります。その他の口径の場合は市販の変換アダプターの購入をお願いいたします。

合同会社クオリティーライズ

〒041-0841 北海道函館市日吉町2丁目27番19号

TEL:0138-87-2464

FAX:0138-87-0826

Mail:mizobe@qualityrise.info

代表社員 作業療法士 溝部 和

第55回 北海道作業療法学会学術大会 プログラム集

2025年5月28日発行

発行者 第55回北海道作業療法学会学術大会

大会長 太田 久晶

事務局 札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科内

〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目

実行委員長 齊藤 秀和

演題抄録部長 中村 裕二

E-mail : haot55th@gmail.com

発行 大輝印刷株式会社

〒060-0806 北海道札幌市北区北6条西7丁目 小貫印刷センタービル

TEL 011-726-2235 FAX 011-716-9124